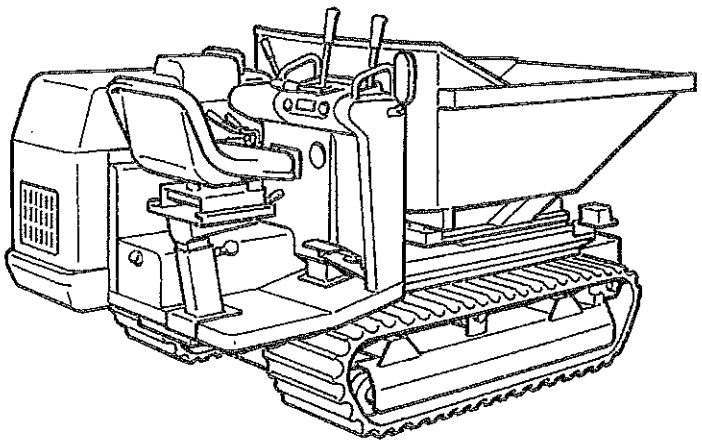
CANYCOM

不整地運搬車
BFG1303

取扱説明書



⚠ 警　告

この説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

3647 6302 002

株式会社 筑水キャニコム
〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL.(0943)75-2195 (代) FAX(0943)75-4396

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただいて、正しい取り扱いをしてください。

⚠警　告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

⚠警　告

本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

⚠警　告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

事業者の皆様へ

⚠注　意

本製品は、労働安全衛生法施行令で定める不整地運搬車に該当します。本製品の運転には、不整地運搬車運転技能講習の修了が必要です。また、不整地運搬車は日常点検、定期自主点検、特定自主点検が義務付けられています。なお、定期自主点検記録は３年間保存してください。

リース（レンタル）業者の皆様へ

⚠注　意

本製品を他の事業者または個人に貸す際には、取扱い方法を明確に説明し、使用の前に本書を必ず読むように指導してください。

目　　次

1. はじめに 1

1.1 本書の目的について 1
1.2 本書の構成について 1
1.3 本書の警告用語について 2
1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて 2

2. 保証とアフターサービスについて 3

3. 安全運転・作業のための心得 4

4. 各部の名称とはたらき 8

5. 製品仕様 10

5.1 本製品の仕様 10
5.2 工具袋明細 11

6. 運転と操作 12

6.1 始動前の準備 12
6.1.1 燃料の給油 12
6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給 13
6.1.3 エンジン冷却水量の点検と補給 13
6.2 始動のしかた 14
6.3 運転のしかた 16
6.4 停止のしかた 18

6.5 ダンプ操作 19
6.5.1 上昇／下降 19
6.5.2 方向切替え（三転ダンプ仕様車） 20
6.6 ターン操作（ターン＆ダンプ仕様車） 21

7章 保守（お手入れ） 22

7.1 定期点検表 22
7.2 給油、給脂、注油、給水一覧表 27
7.3 消耗品（交換部品）一覧表 27
7.4 給油 28
7.4.1 エンジンオイル 28
7.4.2 トランスミッションオイル 29
7.4.3 パワーパッケージオイル（油圧ダンプ用オイル） 30
7.5 給脂・注油 31
7.5.1 転輪取付ピン 31
7.5.2 各摺動部 31
7.6 給水 33
7.6.1 エンジン冷却水 33
7.6.2 バッテリ液 34
7.7 清掃 36
7.7.1 エアクリーナエレメント 36
7.8 調整 36
7.8.1 Vベルト 36
7.8.2 走行クラッチ 37
7.8.3 駐車ブレーキ 39
7.8.4 サイドクラッチ 40
7.8.5 クローラの張り 41
7.9 使用後のお手入れ 42

8. 格納（長期保管） 43

8.1 本機（車両） 43
8.2 バッテリ 43
8.3 エンジン 44
8.3.1 フューエルコック 44
8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃 44
8.3.3 エンジンオイルの交換 44
8.3.4 エンジン冷却水の排出 44

9. 不具合発生時の処置 45

9.1 不具合診断表 45

10. 本機の移送 50

＜保証書＞

本書の巻末に添付
※ 本機の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

＜付　録＞

「エンジン取扱説明書」
※ 本書と併せて必ずお読みください。

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。
また、本書は、はじめてこの製品を使用される方を対象として制作しています。

1.2 本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1．はじめに

この章では、本書の目的、構成および本書で使用している警告用語について説明しています。また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2．保証とアフターサービスについて

この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3．安全運転・作業のための心得

この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4．各部の名称とはたらき

この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5．製品仕様

この章では、本製品の仕様について記載しています。また、工具袋の明細についても記載しています。

6．運転と操作

この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7．保守（お手入れ）

この章では、定期点検、給油、給脂、注油、給水、清掃、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8．格納（長期保管）

この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9．不具合発生時の処置

この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10．本機の移送

この章では、本機を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。

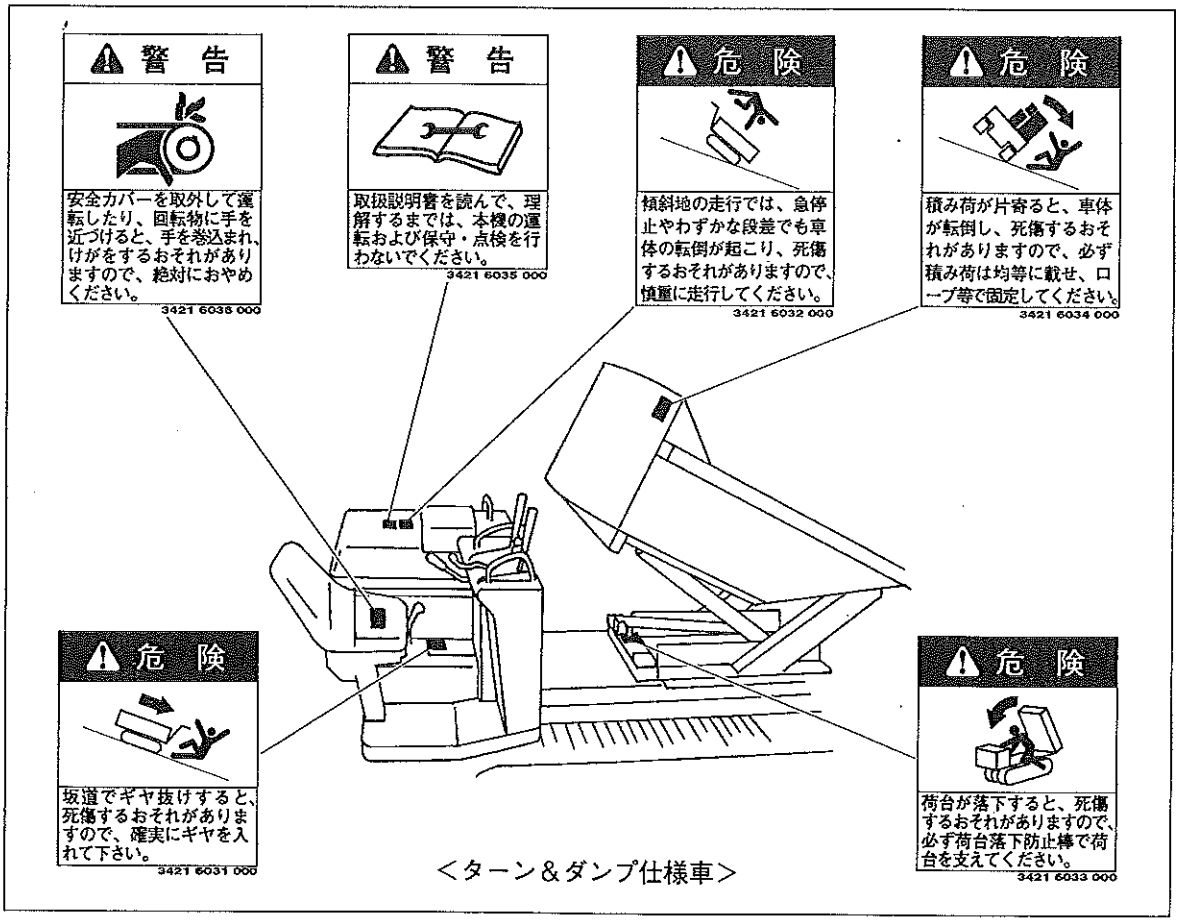
1.3 本書の警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を次の4段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

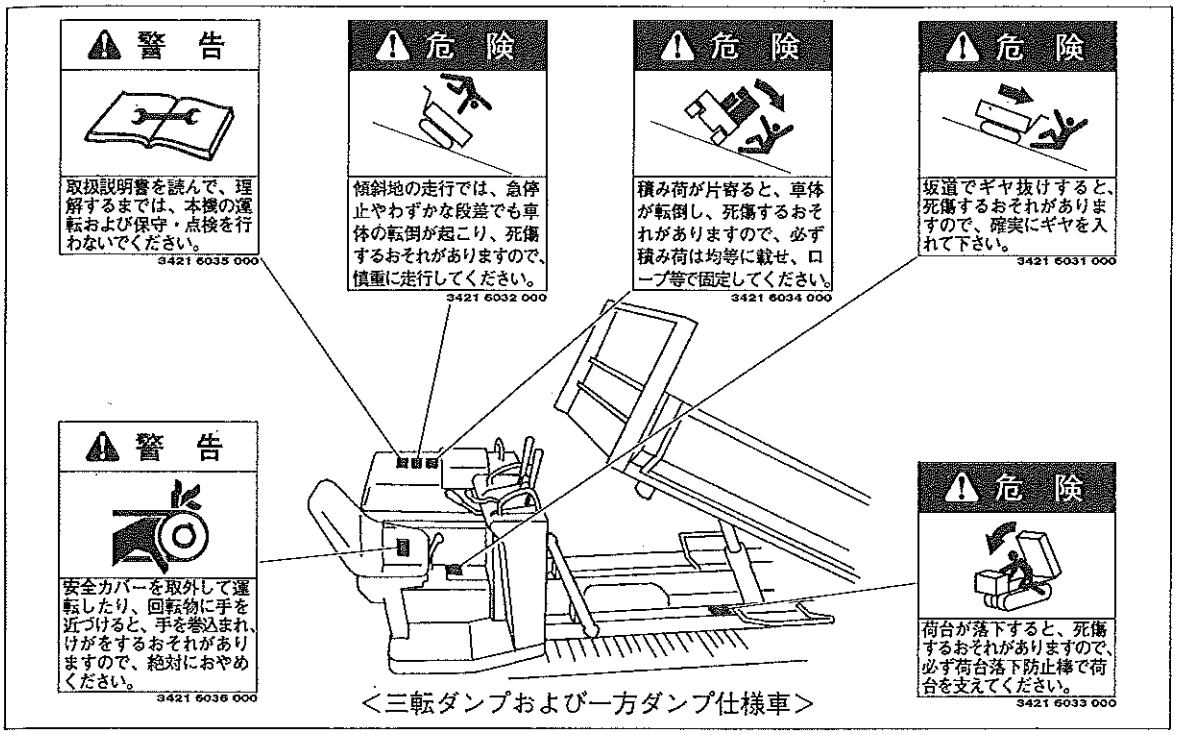
警告用語	意　味
⚠危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注　記	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり、見えにくくなった場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。



＜ターン＆ダンプ仕様車＞



<三転ダンプおよび一方ダンプ仕様車>

2. 保証とアフターサービスについて

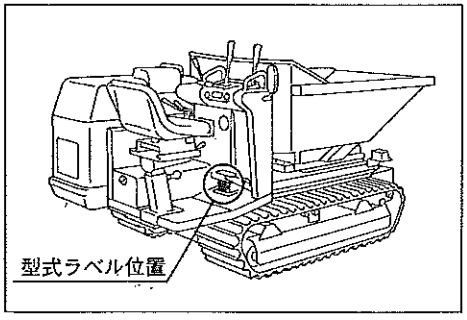
保証について

当社は本製品について、「保証書」の内容に基づいて保証をいたしております。詳しくは本書巻末に添付の「保証書」を参照ください。

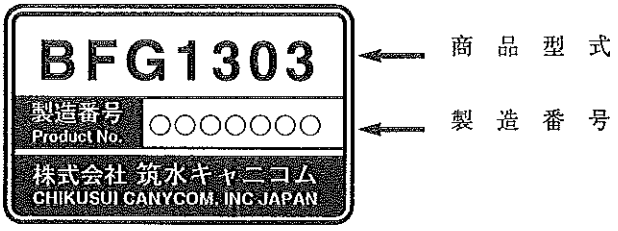
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。
その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。(搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の第5章「製品仕様」を参照してください。☞10ページ)

<型式ラベル位置>



<型式ラベル>

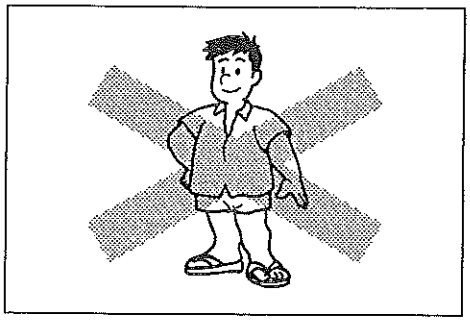


補修用部品の供給年限(期間)について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打切り後7年とします。

3. 安全運転・作業のための心得

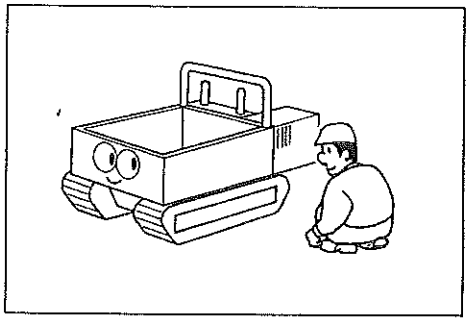
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。



運転前の心得

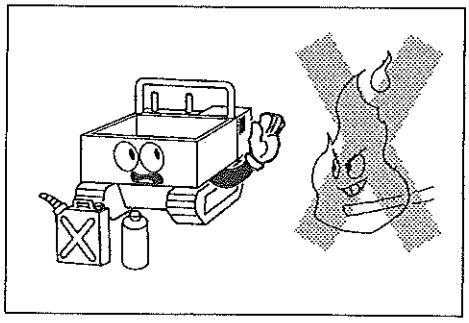
⚠ 正しい服装の励行

運転および作業にふさわしい服装を心掛け、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



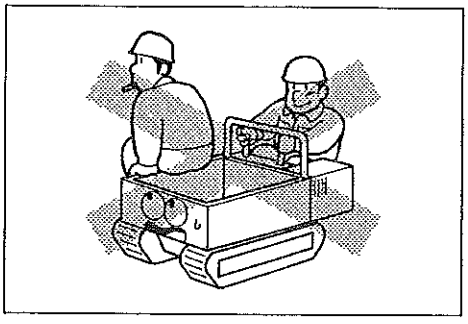
⚠ 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



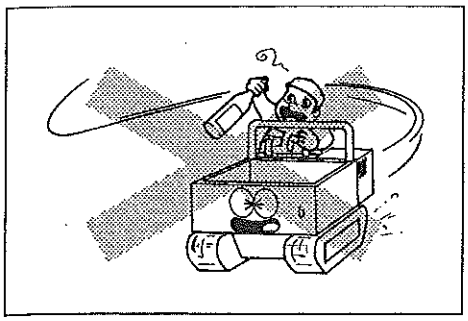
⚠ 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



⚠ 同乗禁止

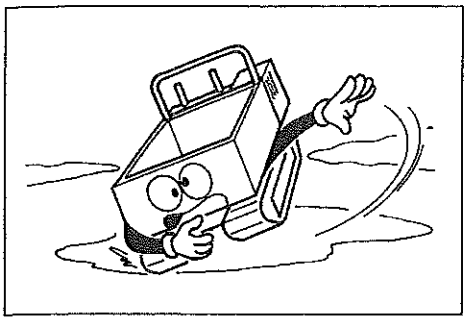
本製品は一人乗りです。同乗車を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗せないでください。



⚠ 無謀運転禁止

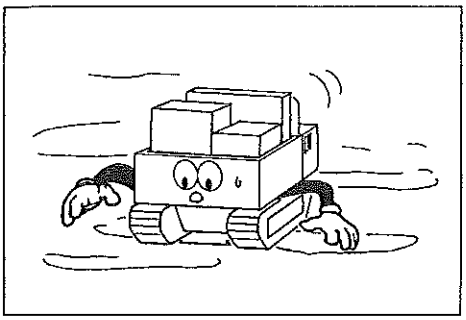
飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。

走行時の心得



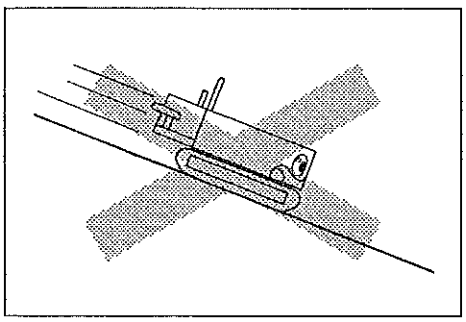
⚠ 急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進（特に後進時）の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。



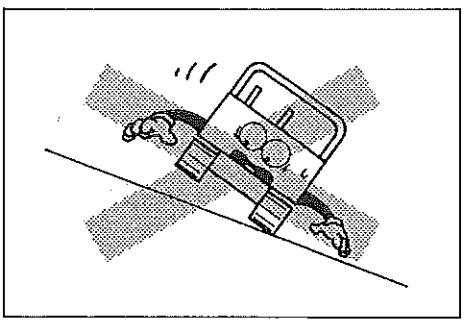
⚠ 安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。



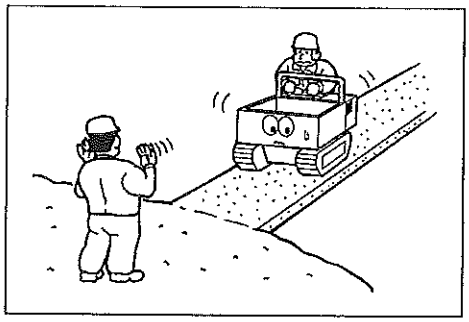
⚠ 下り坂ではエンジンブレーキを

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速に入れ、エンジンブレーキを必ず使用して減速を行ってください。十分な減速を行わないで停止操作を行うと、車体が浮き上がるおそれがあり危険です。



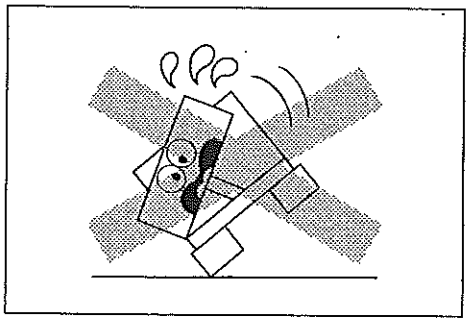
⚠ 斜面での横断禁止

傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると危険です。また急傾斜地はサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は、逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。



⚠ 危険な場所では誘導者の指示に従う

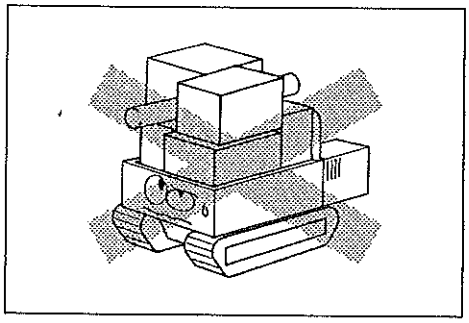
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。



⚠ 荷台のダンプおよび回転状態での走行禁止

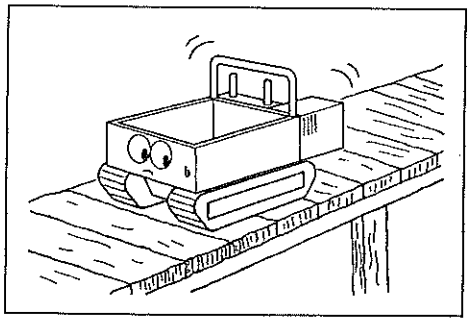
荷台をダンプした状態および荷台を回転した状態（ターン＆ダンプ仕様）での走行は車体の重心が移動して転倒する恐れがありますので、絶対に行わないでください。

積載時の心得



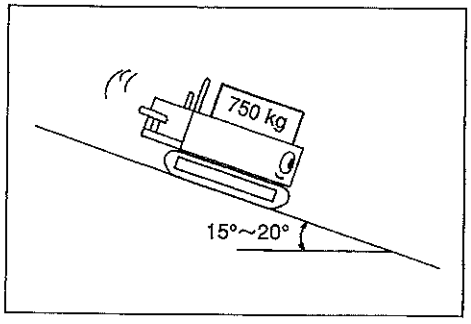
⚠ 過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。



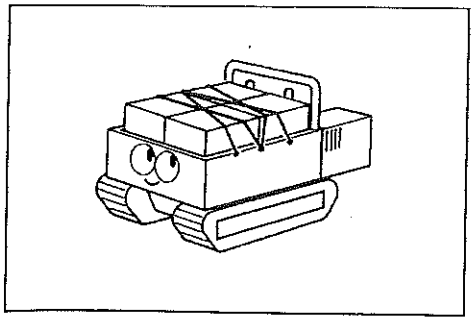
⚠ 制限重量に注意

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量および運転者の体重の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



⚠ 傾斜地での積載量に注意

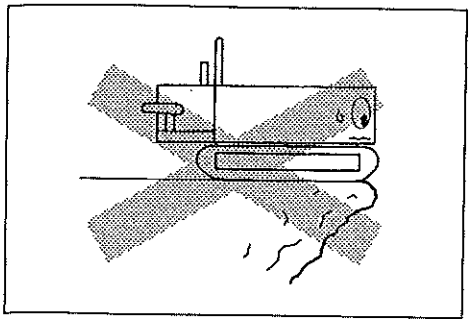
15°～20°の傾斜地では、積載量を750kg以下にして走行してください。20°を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転してください。



⚠ 積み荷は正しく載せる

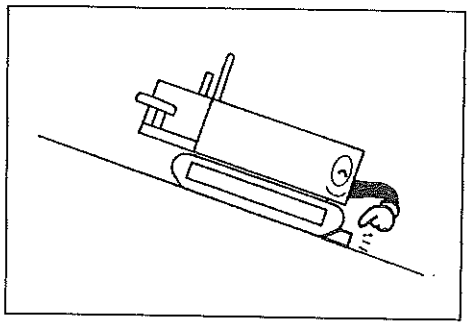
積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

駐車時の心得



⚠ 危険な場所での駐停車禁止

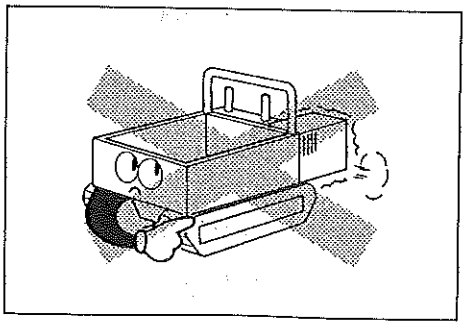
駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。



⚠ 坂道での輪止め励行および駐車時の安全確認

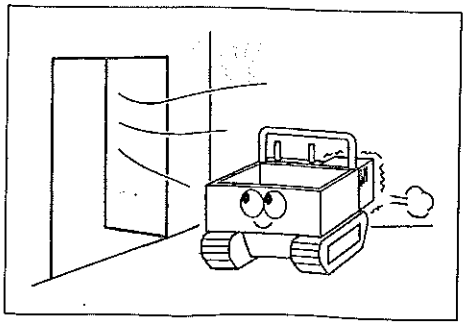
坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけた後、輪止めをしてください。また、車両から離れるときは、エンジン停止を励行し、キーを忘れずに抜いてください。

整備時の心得



⚠ エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

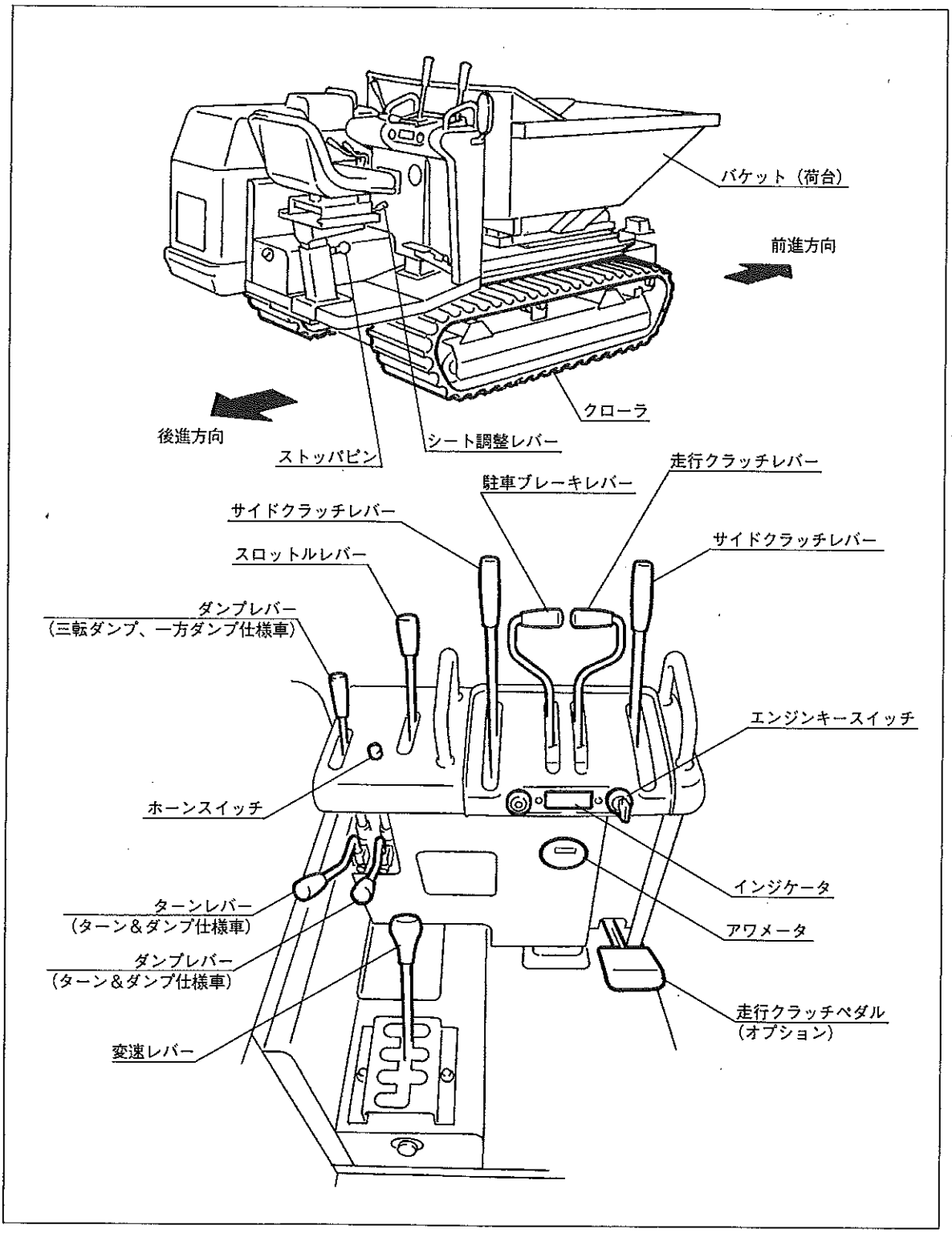


⚠ 換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

4. 各部の名称とはたらき

各部の名称



各部のはたらき

- スロットルレバー .....エンジン回転数の増減およびエンジンを停止させるときに使用します。
- サイドクラッチレバー .....方向を変えるときに使用します。
  車体はレバーを引いた側へ曲がります。
  また、左右同時にレバーを引くとその場で急停車します。
- 走行クラッチレバー .....エンジンからミッションへの動力を断続させます。
  レバーを前方に倒すと「走（走行）」の状態、後方に倒すと「停（停止）」の状態になります。
- 走行クラッチペダル（オプション） .....走行クラッチレバーと連動しており、ペダルを踏むと走行クラッチレバーが「走（走行）」の方向へ倒れ、離すと「停（停止）」の状態になります。
- 駐車ブレーキレバー .....車体を確実に駐車させます。
  レバーを前方に倒すと「切（ブレーキ解除）」の状態、後方に倒すと「入（ブレーキ作動）」の状態になります。
- 変速レバー .....走行速度の選択に使用します。
  変速は走行クラッチレバーを「停」にして、車体が停止した状態で行ってください。
- エンジンキースイッチ .....エンジンを始動させるときに使用します。
- ホーンスイッチ .....ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。
  走行するときの警報・作業の合図等に使用します。
- ダンプレバー .....荷台の「上昇」、「下降」を行うときに使用します。
- ターンレバー（ターン＆ダンプ仕様車のみ） .....荷台の回転を行うときに使用します。
- インジケータ .....バッテリ充電状態・水温・エンジン油圧の異常発生時に点灯します。
- アワメータ .....エンジンの稼働時間を表示します。
- シート調整レバー .....シートの前後方向の調整を行うときに使用します。
- ストッパピン .....シートの高さを調整するときに使用します。

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

> 注　記
>
> 本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名称・型式				BFG1303			
				バケット型 ターン&ダンプ	箱型 ターン&ダンプ	三転ダンプ	一方ダンプ
機械重量			kg	1100	1200	1050	1000
最大作業能力			kg	1500			
機械寸法	全長		mm	2530	2580	2650	
	全幅		mm	1100	1140	1240	
	全高		mm	1410			
	クローラ接地長さ		mm	1125			
	クローラ中心距離		mm	820			
	最低地上高		mm	140			
	床面高さ		mm	740	730	640	530
荷箱寸法	荷箱内側寸法	長さ	mm	1590	1585	1620	
		幅	mm	1020	985	1130	
		高さ	mm	420	370	275	
エンジン	名称			クボタ ZB600			
	形式			水冷2気筒4サイクルディーゼル			
	シリンダ（内径×行程）		mm	72×70			
	総排気量		cc	570			
	最大出力		PS/rpm	13/3200			
	最大トルク		kg·m/rpm	3.5/2100			
	始動方式			セルフスタータ式（グロープラグ付き）			
	使用燃料			軽油			
	燃料消費率		g/PS·h	200			
	燃料タンク容量		ℓ	12.0			
	潤滑油容量		ℓ	3.0			
	バッテリ形式			65D26R			
	バッテリ容量		V/AH	12/52（5時間率）			

名称・型式					BFG1303			
					バケット型 ターン&ダンプ	箱型 ターン&ダンプ	三転ダンプ	一方ダンプ
走行性能	走行速度	前進	1速	km/h	1.7			
			2速	km/h	3.3			
			3速	km/h	5.0			
			4速	km/h	7.7			
		後進	1速	km/h	1.6			
			2速	km/h	3.0			
			3速	km/h	4.6			
	最小回転半径			m	1.8			
	登坂能力			度	25			
トランスミッション油量				ℓ	4.0			
動力伝達装置	クラッチ形式				乾式多板クラッチ			
	主変速形式				ギヤスライド			
	操向装置形式				ドグクラッチ・湿式ブレーキ式			
	ブレーキ形式				湿式ディスクブレーキ			
	クローラ				280×48×72			
ダンプ装置	ダンプ方式				油圧ダンプ方式			
	ダンプ形式				ターン&ダンプ	ターン&ダンプ	三転ダンプ	一方ダンプ
	油圧ポンプ	形式			ギヤポンプ			
		定格回転速度		rpm	1500			
		定格吐出量		ℓ/min	8.0		6.7	
		リリーフ設定圧		kg/cm²	140			
	シリンダ（内径×行程）			mm	60×680	60×490	60×300	
	性能	最大上昇角度		度	80	60	前方57/左右50	57
		上昇時間		sec	約11.0	約8.0	約6.0	
		下降時間		sec	約7.0	約5.0	約4.0	
	油圧作動油量			ℓ	2.4		1.7	
回転装置	回転方式				油圧（ラック&ピニオン）		—	
	最大回転角度			度	右90～左90（任意）		—	
	回転時間			sec	右約4.0　左約4.0		—	
	シリンダ（内径×行径）			mm	55×230		—	

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.2 工具袋明細

No.	部品名	個数	備考	No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書（本書）	1		3	スパナ（30）	1	クローラ張りボルト調整用
2	エンジン取扱説明書	1		4	エンジン工具	1式	エンジン整備用

6. 運転と操作

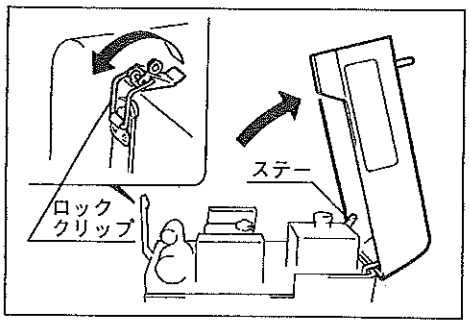
- 本章を読む前に第3章「安全運転・作業のための心得」(☞4ページ～7ページ) を必ずお読み下さい。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

6.1 始動前の準備

6.1.1 燃料の給油

⚠危険

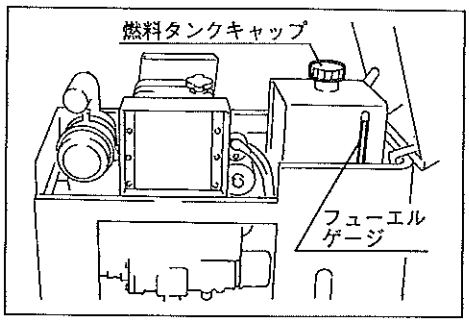
- **給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。**
- **給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。**
- **エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。**



1. エンジンカバーのロッククリップを解除します。
2. エンジンカバーの取手を手で持ち上げ、エンジンカバーを開けます。

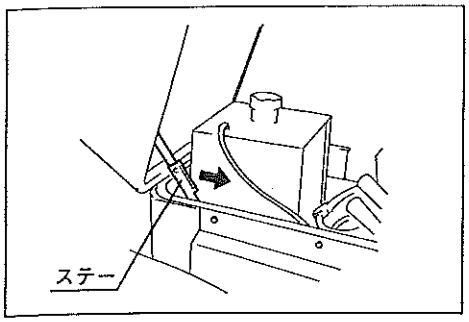
注　記

エンジンカバーがステーで確実に保持され、倒れないことを確認してください。



3. フューエルゲージを目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

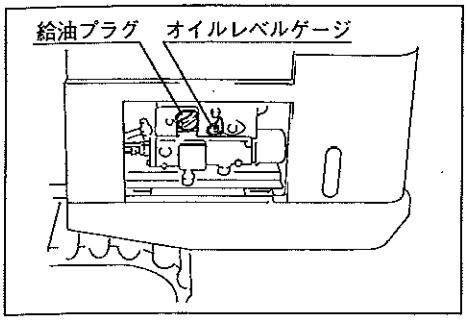
使用燃料：軽油
燃料タンク容量：12.0 ℓ



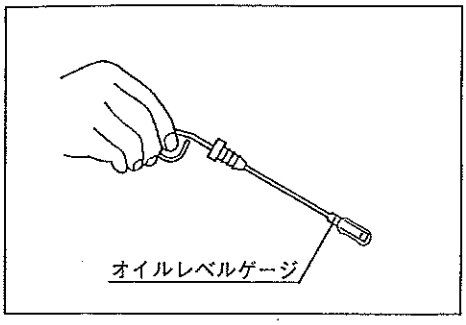
4. エンジンカバーのステーを前方に折り曲げ、エンジンカバーを確実に閉めます。

5. ロッククリップをかけます。

6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給



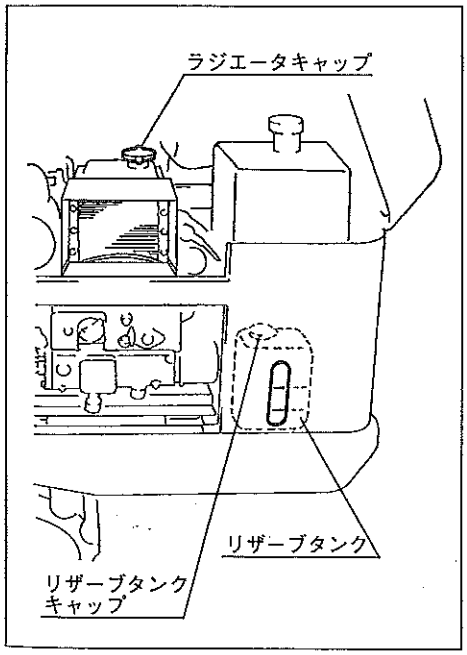
1. オイルレベルゲージを抜き取ります。



2. エンジンオイル量を目視点検し、規定量にない場合は、給油プラグを開け、エンジンオイルを補給します。

エンジンオイル量：オイルレベルゲージの上の刻み線まで
使用オイル：☞27ページ

6.1.3 エンジン冷却水量の点検と補給



⚠注 意

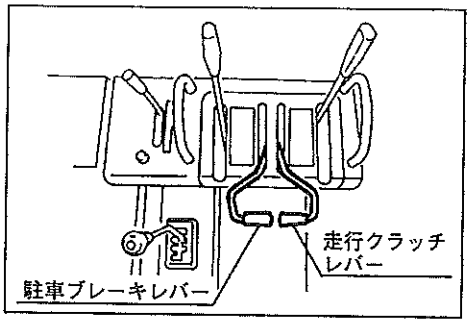
エンジン運転中およびエンジン停止直後にラジエータキャップを開けると、熱湯が噴出してやけどをすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから（エンジン停止後約10分程度）開けてください。

注 記

エンジン冷却水の点検および補給は、冷却水が冷めてから行ってください。

1. リザーブタンクのエンジン冷却水量を目視点検し、規定量にない場合は、リザーブタンクキャップを開け、冷却水を補給します。

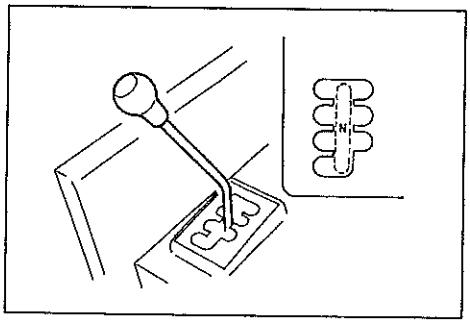
冷却水量：リザーブタンクの基準線（上と下）の間
リザーブタンク容量：0.9ℓ



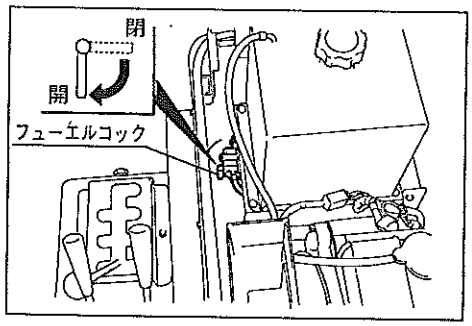
6.2 始動のしかた

1. 走行クラッチレバーが「停」の位置にあることを確認します。

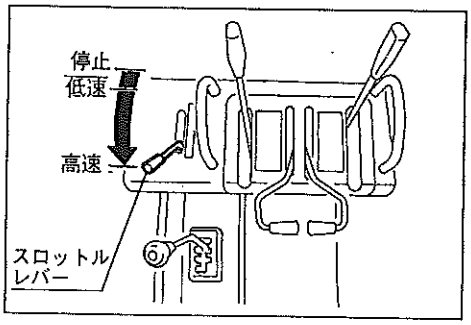
2. 駐車ブレーキレバーが「入」の位置にあることを確認します。



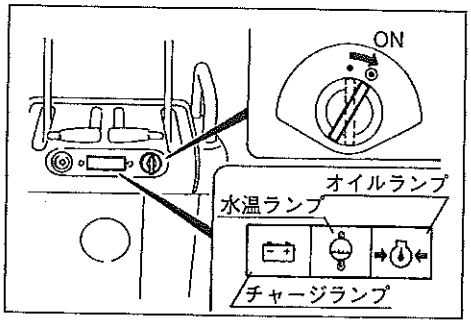
3. 変速レバーを「中立（ニュートラル）」の位置にします。



4. フューエルコックを「開」の位置にします。



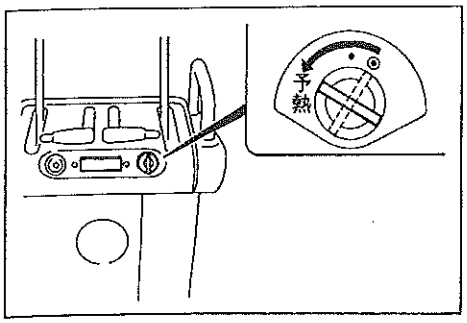
5. スロットルレバーを「高速」の位置にします。



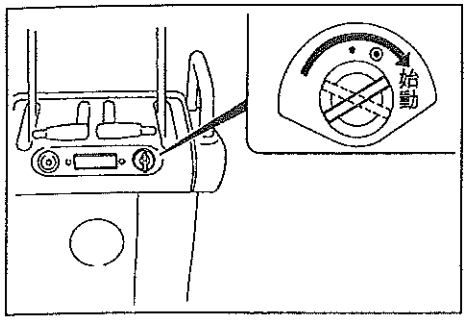
6. エンジンキーをエンジンキースイッチに差し込み、「ON（◉）」の位置にします。（インジケータのチャージランプおよびオイルランプが点灯します。）

注　記

チャージランプおよびオイルランプは、エンジンを始動させると、正常な場合は消灯します。エンジンを始動させた後も消灯しない場合は、第9章「不具合発生時の処置」を参照して、適切な処置をしてください。



7. エンジンキーを「予熱」の位置まで回し、グロープラグを予熱します。(常温始動で約10秒、寒冷時では約20～30秒間予熱します。)



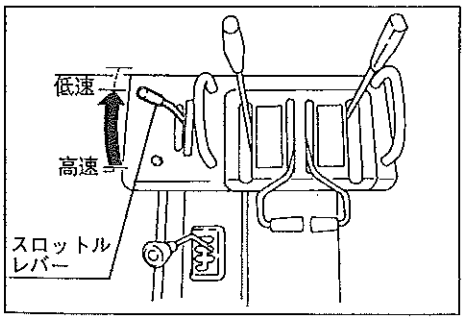
8. エンジンキーを「始動」の位置まで回し、エンジンを始動させます。

注　記

- 始動しない場合、15秒以上連続してセルモータを回さないでください。エンジンキーを「ON (◉)」位置に戻し、30秒以上休んでから再始動するようにしてください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリを充電するようにしてください。

⚠注　意

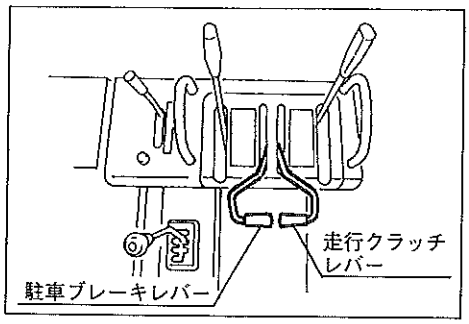
エンジン運転中は、エンジンキーを「始動」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。



9. エンジンが始動したら、スロットルレバーを「低速」の位置にし、1～2分間暖機運転をします。

注　記

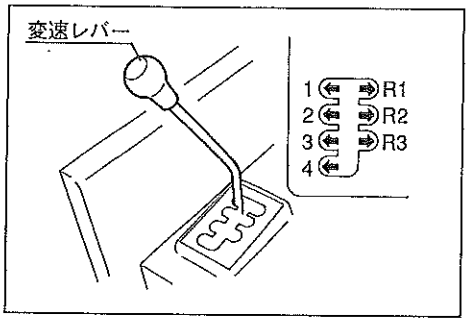
- 購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。
- 寒冷時は暖機運転を十分に行ってから発進してください。エンストの原因となります。



6.3 運転のしかた

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。

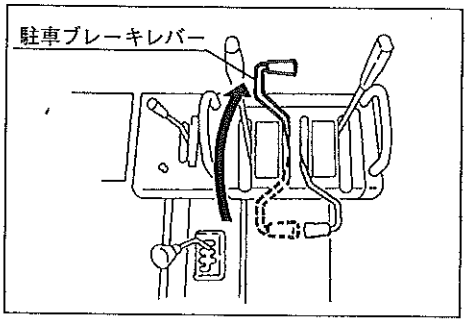
2. 走行クラッチレバーが「停」、駐車ブレーキレバーが「入」の位置にあることを確認します。



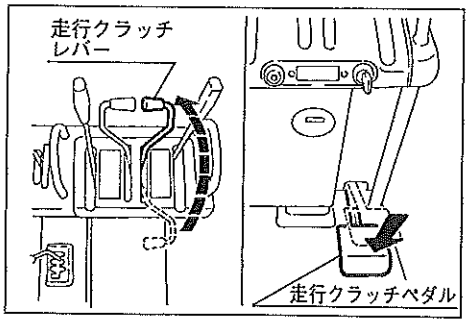
3. 変速レバーを前進または後進の任意の変速位置に確実に入れます。(各変速位置での走行スピードについては、第5章の「製品仕様」を参照してください。☞11ページ)

⚠危 険

変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、走行クラッチレバーを「走」へ少し動かし、確実にギヤチェンジを行ってください。



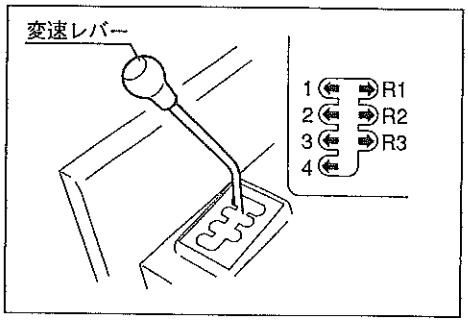
4. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置にします。



5. 走行クラッチレバーを「走」の位置に徐々に倒し（または走行クラッチペダルをゆっくり踏み込み)、発進させます。

注　記

走行クラッチレバーを急に倒す（走行クラッチペダルを急に踏み込む）と、エンストする場合があります。



(変速する場合)

6. 車体を停止させた後、上記1～3の操作を行います。(車体の停止のしかたについては、6.4『停止のしかた』を参照してください。☞18ページ)

⚠注　意

走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。

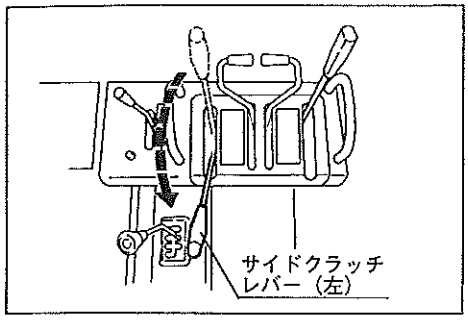
（旋回する場合）

⚠ 危　険

急旋回をすると、運転者が振り落とされたり、車両が転倒するおそれがあり、危険です。

⚠ 注　意

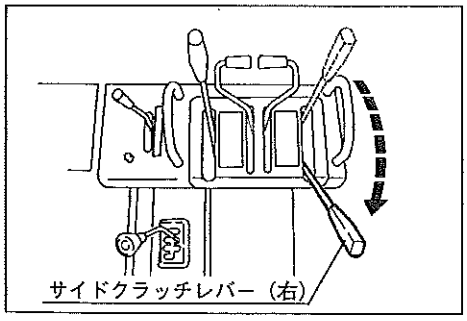
左右両側のサイドクラッチレバーを同時に操作すると急停車しますので、緊急の場合を除き、左右のサイドクラッチレバーを同時に操作しないでください。



左に旋回する場合：

6. 左側のサイドクラッチレバーを徐々に手前に引きます。

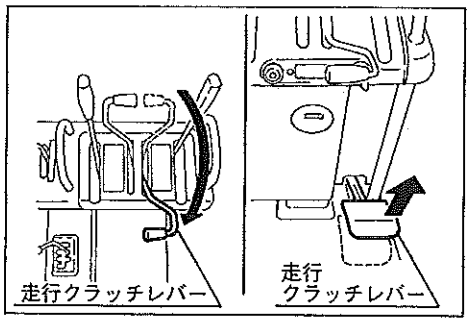
旋回半径は、サイドクラッチレバーを引く力（量）により、任意に変化させることができます。軽く引けば緩旋回、強く引けば急旋回になります。



右に旋回する場合：

6. 右側のサイドクラッチレバーを徐々に手前に引きます。

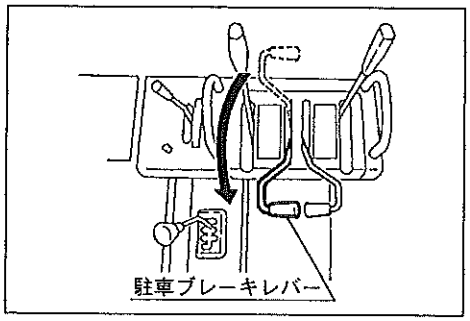
旋回半径は、サイドクラッチレバーを引く力（量）により、任意に変化させることができます。軽く引けば緩旋回、強く引けば急旋回になります。



6.4 停止のしかた

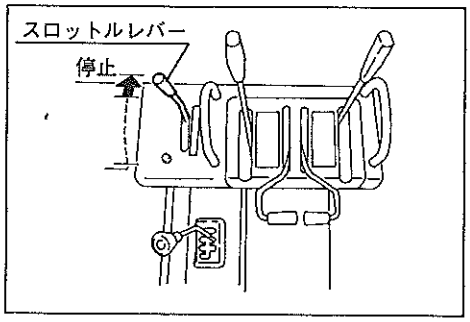
1. スロットルレバーを「低速」位置にし、車体を減速させます。

2. 走行クラッチレバーを「停」の位置にします。(または走行クラッチペダルから足を離します。)

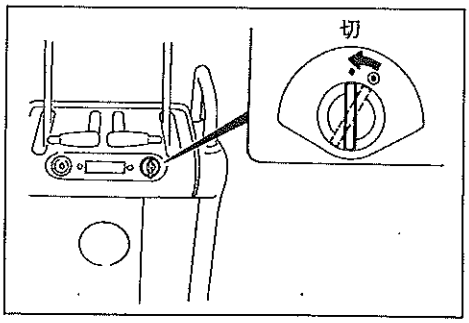


3. 駐車ブレーキレバーを「入」の位置にします。

> **⚠ 注 意**
>
> **緊急の場合は、走行クラッチレバーと駐車ブレーキレバーを同時に、または左右のサイドクラッチレバーを同時に手前へ引いてください。車体は急停車します。なお、傾斜地では車体が浮き上がることがありますので、十分注意してください。**

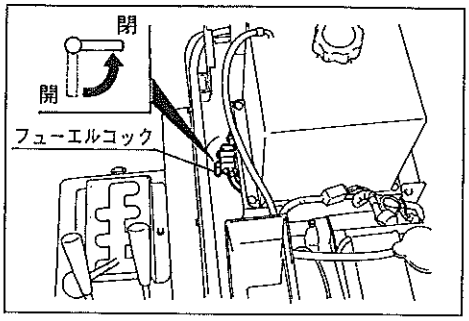


4. スロットルレバーを「停止」の位置まで倒し、エンジンを停止させます。

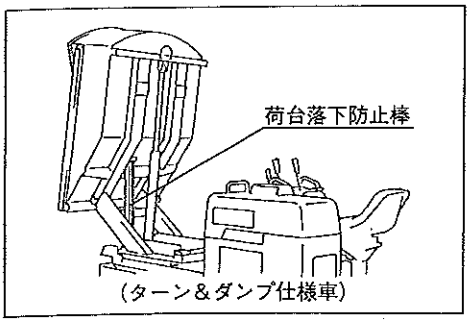


5. エンジンキーを「切 (●)」の位置にし、キーを抜き取ります。

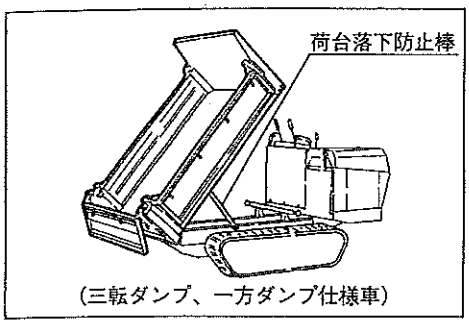
> **注 記**
>
> **エンジンキーを「ON (◉)」のままにしておくと、バッテリから各回路に電流が流れ続け、バッテリの上がりの原因になります。**



6. フューエルコックを閉じます。



(ターン＆ダンプ仕様車)



(三転ダンプ、一方ダンプ仕様車)

6.5 ダンプ操作

⚠ 危 険

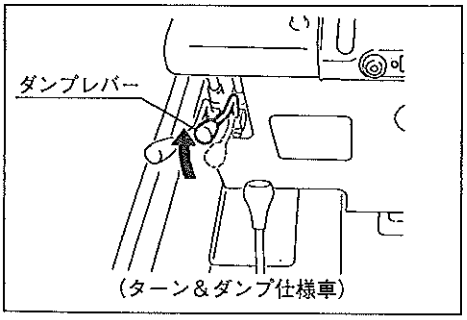
- 荷台を上昇して荷台下等の点検を行ったり、油圧部品等の交換作業を行う場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒を使用して、荷台を確実に支えてください。
- ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

⚠ 警 告

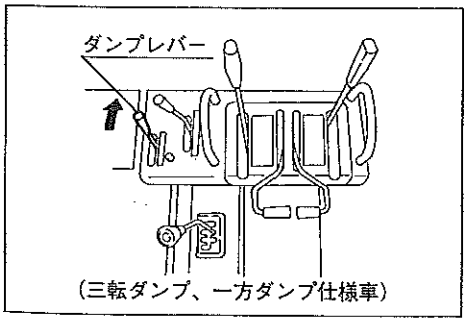
急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険です。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にして使用してください。

⚠ 注 意

荷を積載したまま荷台を下降させる場合は、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転を低くして荷台をゆっくり下げてください。



(ターン＆ダンプ仕様車)

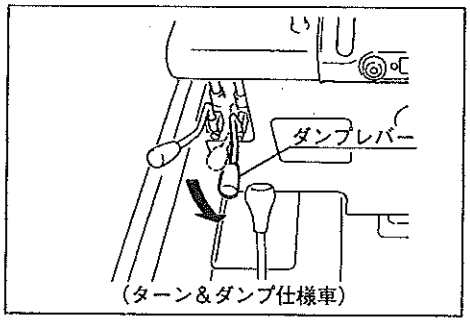


(三転ダンプ、一方ダンプ仕様車)

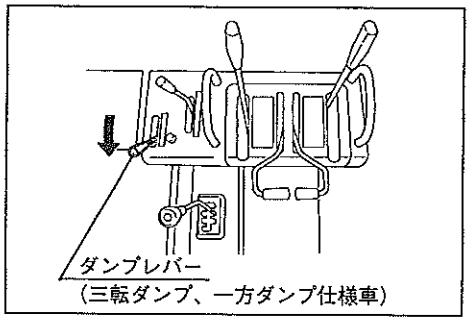
6.5.1 上昇／下降

(荷台を上昇させる場合)

1. エンジンを始動します。
2. スロットルレバーを「高速」の位置にし、エンジン回転数を上げておきます。
3. ダンプレバーを「上昇」の位置に倒します。
4. 荷台が上限まで上がるとリリーフ音（キュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく中立に戻します。



（ターン＆ダンプ仕様車）



（三転ダンプ、一方ダンプ仕様車）

（上昇した荷台を下降させる場合）

1. ダンプレバーを「下降」の位置にします。

2. 荷台が下限まで下がるとリリーフ作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」に戻します。

注　記

ダンプの油圧系統にパイロットチェック弁（安全装置）を設置していますので、荷台を上昇したままエンジンを停止してダンプレバーを操作しても、荷台は下降しません。（ターン＆ダンプ仕様車のみ）

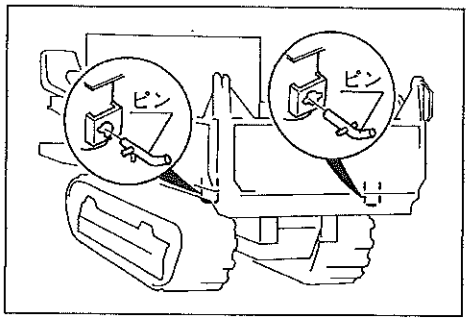
6.5.2　方向切替え（三転ダンプ仕様車）

注　記

ダンプ方向（前方、左側、右側）の切替えは、それぞれ所定の位置にピンを差し込んで行います。ピンを差し込む際は、荷台のピン取付け部の切欠きとピンの突起部を合わせてください。ピンおよび荷台のピン取付け部の切欠きは、2種類ありますので混用しないでください。

⚠危　険

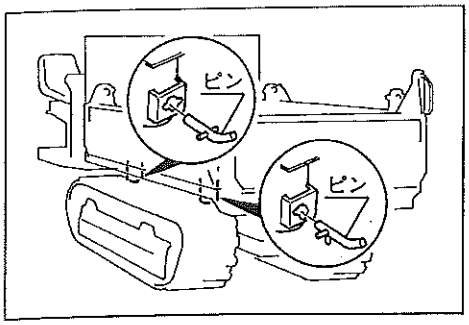
下記で示す所定の位置以外にピンを差し込んで（ピンを差し込まない状態も含む）ダンプさせないでください。荷台が不安定になり非常に危険です。



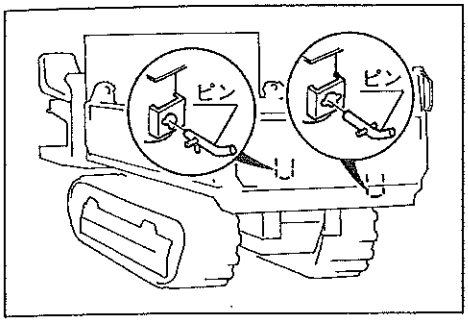
（前方へダンプさせる場合）

1. 図示のようにピンを２ケ所に差し込みます。

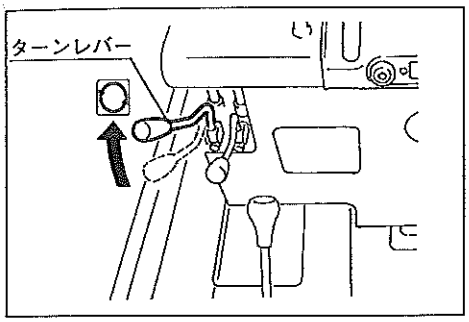
音)
に



(左側にダンプさせる場合)
1. 図示のように、ピンを２ケ所に差し込みます。



(右側にダンプさせる場合)
1. 図示のように、ピンを２ケ所に差し込みます。

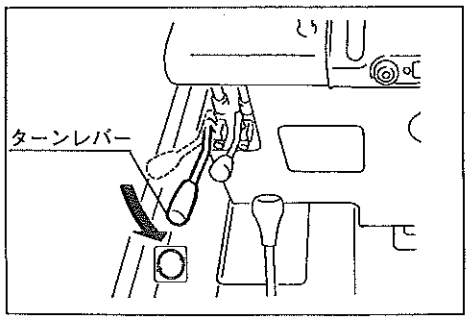


6.6 ターン操作（ターン＆ダンプ仕様車）

(荷台を左に回転させる場合)
1. ターンレバーを「○」の位置にします。

   最大回転角：90°

2. 最大回転角まで回転させるとリリーフ作動音（ヒュー音）がしますので、ターンレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。



(荷台を右に回転させる場合)
1. ターンレバーを「○」の位置にします。

   最大回転角：90°

2. 最大回転角まで回転させるとリリーフ作動音（ヒュー音）がしますので、ターンレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

注　記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については、販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	始動性	● エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○	
		回転の状態	● アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。	正規の回転数であること。回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
			● エンジンを加速した時、スロットルレバーの引っ掛かり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。	引っ掛かり、エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
		排気の状態	● エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
			● 排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れのないこと。		○	○	
		エアクリーナ	● ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂、変形またはふた、接続管に緩みがないこと。		○	○	
			● エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	清掃／交換：☞36ページ
		締付け	● シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 ＊これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	

項目			点検内容		点検時期 始業	点検時期 月例	点検時期 年次	備考
原動機	本体	弁隙間	・弁隙間を調べる。 ＊弁隙間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。	正規の弁隙間であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		圧縮圧力	・圧縮圧力を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		エンジンマウント	・エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○	
			・取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
			・防振ゴムの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
	潤滑装置		・油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検／交換：☞28ページ
			・ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
			・エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。			○	
	燃料装置		・燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れのないこと。	○	○	○	
			・燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			・燃料フィルタエレメントの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	
			・噴射ノズルの噴射圧力および噴霧状態の異常の有無を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければ、この検査を省略してもよい。	正規の噴射圧力であり、噴霧が正常であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
	冷却装置		・冷却水の量および汚れの有無を調べる。	水量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検／補給：☞33ページ
			・ラジエータ、エンジン本体、ウォーターポンプ、ホース等からの水漏れの有無およびラジエータのフィン目詰まりの有無を調べる。	水漏れまたは目詰まりがないこと。	○	○	○	
			・ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			・ラジエータキャップのバルブ機能の適否を調べる。	正常に機能すること。			○	
			・ラジエータキャップのバルブシート面の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。			○	

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	冷却装置		• ファンベルトの張りを調べる。	基準値以内であること。			○	
			• ベルトの摩耗および損傷の有無を調べる。	著しい摩耗または損傷がないこと。			○	
			• 冷却ファン、カバー、ダクト等の亀裂、損傷および変形の有無を調べる。	亀裂、損傷または著しい変形がないこと。			○	
			• 冷却ファン、カバー等の各取付けボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。	緩みのないこと。			○	販売店へ点検を依頼してください。
	電気装置	充電装置	• 電流計により機能の異常の有無を調べる。	正常に作動すること。			○	
		バッテリ	• 電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検／補給：☞34ページ
			• 端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○	
		配線	• 接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
			• 配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○	
動力伝達装置	走行クラッチ		• アイドリング状態でクラッチを切り、異音の有無を調べると共にトランスミッションを変速しクラッチの切れ具合を調べる。	異音がなくクラッチが完全に切れること。	○	○	○	調整：☞37ページ
			• クラッチを徐々に接続して発進の具合を調べる。	滑りがなく接続が円滑であること。	○	○	○	調整：☞37ページ
	Vベルト		• 外観の損傷および汚れの有無を調べる。	損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○	点検：☞36ページ
	トランスミッション		• 変速レバーを前進および後進状態にして駆動し、作動状態ならびにギヤ抜け、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、ギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
			• ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検／交換：☞29ページ
			• 油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	点検／交換：☞29ページ
			• ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	
	サイドクラッチ		• 走行してサイドクラッチレバーを操作した時、異音がなく確実に作動するか調べる。	異音がなく確実に作動すること。	○	○	○	
			• レバーを操作し、遊びおよび引きしろの適否を調べる。	遊びおよび引きしろが適正であること。	○	○	○	調整：☞40ページ
			• レバーを操作し、ロッド、リンク、軸受部および接続部のガタならびに各ピンの錆付きの有無を調べる。	ガタまたは錆付きがないこと。		○	○	

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
走行装置	スプロケット 遊動輪 転輪 支持転輪	• 亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	亀裂、変形または著しい摩耗がないこと。	○	○	○	
		• 走行して軸部の異音および異常発熱の有無を調べる。	異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
		• 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
		• 軸部周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。	○	○	○	
	クローラ	• スチールコードの切断および損傷の有無を調べる。	切断または著しい損傷がないこと。	○	○	○	
		• ゴムの欠け、劣化および摩耗の有無を調べる。	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと。	○	○	○	
		• 芯金の脱落および折れの有無を調べる。	芯金の脱落がないこと。	○	○	○	
		• クローラの張り具合を調べる。	緩みまたは張り過ぎがないこと。	○	○	○	調整：☞41ページ
	クローラ張りボルト	• 張りボルトの変形、腐食の有無を調べる。	変形、腐食がないこと。		○	○	
	トラックフレーム	• 亀裂、変形および損傷の有無を調べる。	亀裂、変形または損傷がないこと。		○	○	
制動装置	駐車ブレーキ	• 機械を走行させてブレーキの効き具合を調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞39ページ
		• 機械を無負荷状態で1/6勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞39ページ
		• レバーを反復させて引き力および戻り具合を調べる。	引き力または戻り具合が正常であること。	○	○	○	
	ロッド、リンク及びワイヤ類	• ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。	○	○	○	
		• ブレーキを反復作動させ、連結部の緩みおよびガタならびに割ピンの欠損の有無を調べる。	連結部の緩みまたはガタ、割ピンの欠損がないこと。	○	○	○	
荷役装置	荷台 (前ドアおよび側板を含む)	• 荷台の上下ならびに前ドアの開閉が円滑に行えるかを調べる。	円滑に作動すること。	○	○	○	
		• ダンプ時に前ドアおよび側板が自動的に開放し、下降時にロックするかを調べる。	開放が滑らかで、確実にロックできること。	○	○	○	
		• 各部の亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	各部の亀裂、変形および摩耗がないこと。	○	○	○	
		• 取付けボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	ボルトの緩み脱落がないこと。	○	○	○	
		• 荷台を上下させてフレームと荷台との取付けピンおよびダンプシリンダ取付けピン等のガタを調べる。	各ピン部に著しいガタがないこと。		○	○	

項目		点検内容		点検時期 始業	点検時期 月例	点検時期 年次	備考
荷役装置	パワーパッケージ	• パッケージ本体からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○	
		• 機械を水平な場所に置き、油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検／補給：☞30ページ
		• 油の汚れの有無を調べる。	油に著しい汚れがないこと。		○	○	点検／補給：☞30ページ
		• ブリーザの目詰まりの有無を調べる。	目詰まりがないこと。			○	
		• ブラケットの取付け状態の適否ならびにボルトおよびナットの緩み、脱落の有無を調べる。	取付け状態が適正で、ボルトおよびナットの緩み、脱落がないこと。		○	○	
		• ホースとの継手部ならびにシール部からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	
		• パッケージを作動させ、無負荷および負荷状態における異常振動、異音、異常発熱の有無を調べる。	異常振動、異音、異常発熱がないこと。		○	○	
		• パッケージに負荷をかけて、負荷時の吐出量および吐出圧力を調べる。 ＊前項の検査で異常がなければこの検査は省略してもよい。	基準値内であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
油圧装置	油圧シリンダ	• 作動状態を調べる。	円滑に作動すること。	○	○	○	
		• シリンダを数回伸縮作動させた後、シール部等からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○	
		• シリンダに負荷をかけて静止させ、シリンダの伸縮量を調べる。	基準値内にあること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		• シリンダチューブおよびロッドの打こん、亀裂、曲がり、擦り傷の有無を調べる。	打こん、亀裂、曲がり、擦り傷がないこと。		○	○	
	配管（油圧ホース類）	• 油圧ホースの亀裂、損傷、老化の有無を調べる。	亀裂、損傷、老化がないこと。	○	○	○	
		• 油圧ホース継手部からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。	○	○	○	
車体・安全装置等	車枠および車体	• 亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または著しい変形がないこと。		○	○	
		• 取付けボルトおよびナットの緩み、脱落の有無を調べる。	緩み、脱落がないこと。		○	○	
	カバー	• 亀裂、変形、腐食の有無を調べる。	亀裂、著しい変形、腐食がないこと。		○	○	
		• カバーの開閉状態を調べる。	開閉に異常がないこと。			○	
	座席	• 取付けボルトおよびナットの緩み、脱落の有無を調べる。	緩み、脱落がないこと。	○	○	○	
	表示板（マーク）	• 構造規格に規定された表示板その他の注意・指示銘板等が損傷なく取付けられているか調べる。	損傷なく取付けられていること。		○	○	

7.2 給油、給脂、注油、給水一覧表

項　　目	補 給 時 期	推 奨 品	容量	参照ページ
燃料	随時	軽油	12.0 ℓ	☞12ページ
エンジンオイル	補給：毎日点検し、不足時に補給 交換： 初回：20時間目 2回目以降：50時間毎	API分類　CC級以上または クボタ純オイルD10W30	3.0 ℓ	☞28ページ
トランスミッションオイル	初回：50時間目 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル（API分類 GL4以上で湿式ディスクブレーキに適正なもの）	4.0 ℓ	☞29ページ
パワーパッケージオイル（油圧ダンプ用）	100時間毎に点検し、不足時に補給	タービン油（ISO：VG32 JIS：#90）	2.4 ℓ *1 1.7 ℓ *2	☞30ページ
転輪、支持転輪、遊動輪、転輪取付ピン	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は給脂不要	シャーシグリース	—	☞31ページ
各摺動部	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は注油不要	ギヤオイル（API分類 GL4または5 SAE分類 #80）	—	☞31ページ
エンジン冷却水	毎日点検し、不足時に補給	不凍液混合水	3.1 ℓ (0.9 ℓ)*3	☞33ページ
バッテリ液	毎月点検し、不足時に補給	蒸留水	—	☞34ページ

*1：ターン＆ダンプ仕様車の場合　　*2：三転ダンプおよび一方ダンプ仕様車の場合
*3：（ ）内はリザーブタンク容量を示す

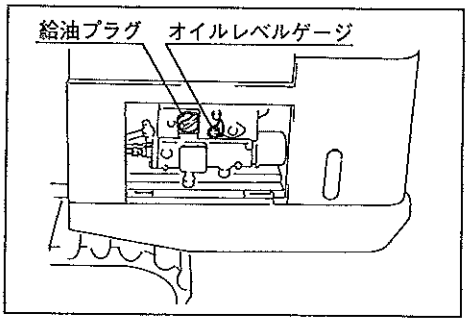
7.3 消耗品（交換部品）一覧表

項　　目	交 換 時 期	個　　数	参照ページ
エアクリーナエレメント	600時間運転毎	1	☞36ページ
フューエルフィルタ	400時間運転毎	1	—
オイルフィルタカートリッジ	150時間運転毎	1	付録の「エンジン取扱説明書」を参照してください
Vベルト	不具合があれば交換	2種類	交換については販売店へ依頼してください
ブレーキディスク	不具合があれば交換	2	交換については販売店へ依頼してください
バッテリ	不具合があれば交換	1	☞34ページ
クローラ	不具合があれば交換	2	交換については販売店へ依頼してください
上記以外で点検上交換が必要と思われる部品	販売店（当社センター）へお問い合わせください。	—	—

7.4 給油

注　記

給油がおろそかになると、回転が円滑に行われないばかりでなく、故障の原因となり機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。



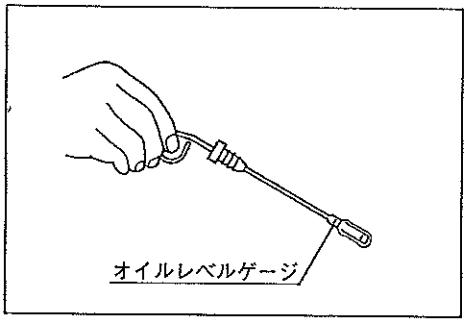
7.4.1 エンジンオイル

注　記

エンジンを水平な状態にして、点検を行ってください。

点検／補給

1. オイルレベルゲージを抜き取ります。



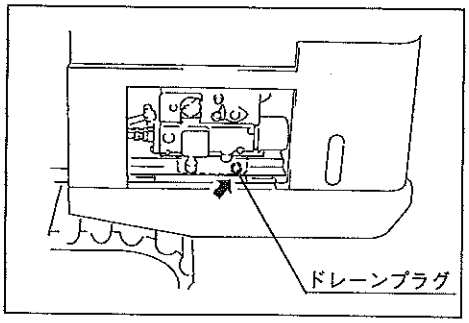
2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、給油プラグを取外し、エンジンオイルを補給または交換します。

オイル量：オイルレベルゲージの上の刻み線まで
使用オイル：☞27ページ

3. 給油プラグを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な受け皿を用意します。



2. エンジン底部のオイルドレーンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。

⚠注　意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

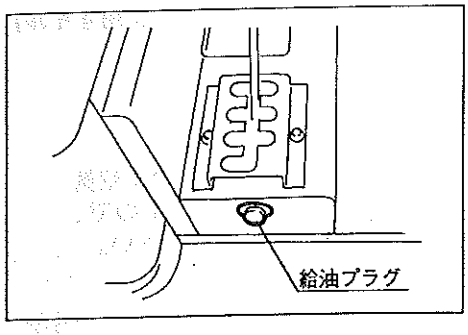
注　記

廃油は適切な処理をしてください。

3. エンジンのクランクケース内を軽油で洗浄します。

4. オイルドレーンプラグを取付けます。

5. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）



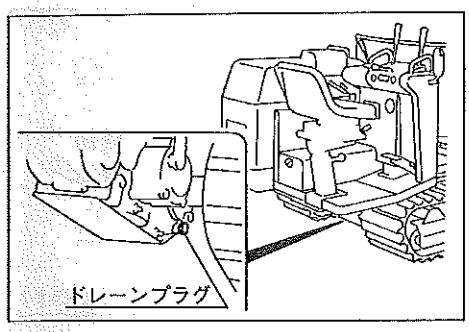
7.4.2　トランスミッションオイル

点検／補給

1. 給油プラグを取外します。
2. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

   使用オイル：☞27ページ

3. 給油プラグを取付けます。



交換

1. オイルを抜取る適当な受け皿を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

   参考：
   給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

> ⚠ 注　意
>
> **オイル高温時には火傷のおそれがあります。**

注　記

廃油については適切な処理をしてください。

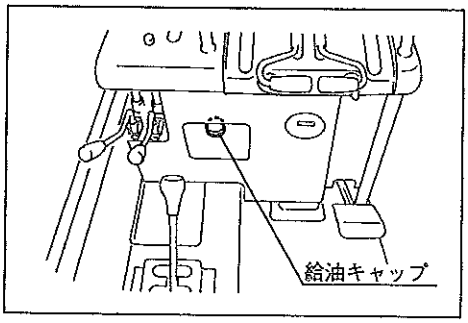
3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）

7.4.3 パワーパッケージオイル（油圧ダンプ用オイル）

点検／補給

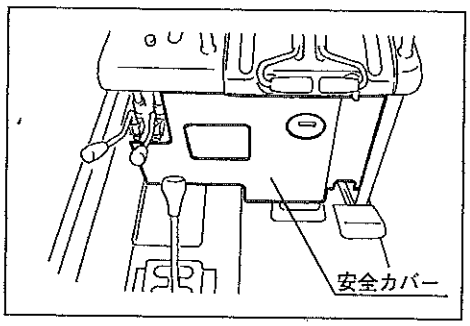
注　記

オイルが減るとホースおよびシリンダ内に空気が入り、ダンプの上昇が悪くなりますので、100時間毎にオイルの点検を行ってください。



1. 給油キャップを取外します。
2. オイル量を目視点検し、オイルが不足している場合はオイルを補給します。
   補給する時は安全カバーを取外してください。

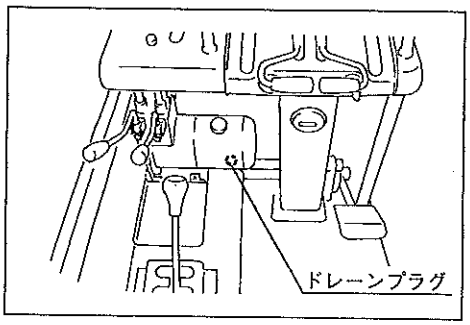
   使用オイル：☞27ページ
3. 給油キャップを取付けます。
4. エンジンを始動し、オイルを循環させます。



注　記

エンジンを始動し、荷台を上昇させると、最初はエアが入っていますのでノックしますが、2～3回繰り返しますと良くなります。

交換



1. 安全カバーを取外します。
2. オイルを抜取るための適当な受け皿を用意します。
3. ドレーンプラグを取外します。

注　記

廃油は適切な処理をしてください。

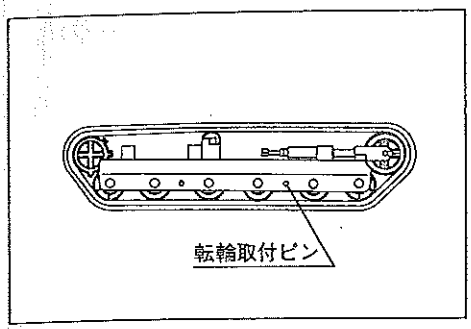
4. ドレーンプラグを取付けます。
5. 給油キャップを開け、オイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）

7.5 給脂・注油

注　記

給脂および注油がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転や作動が円滑に行われないおそれがありますので、定期的に給脂および注油を行ってください。

7.5.1 転輪取付ピン

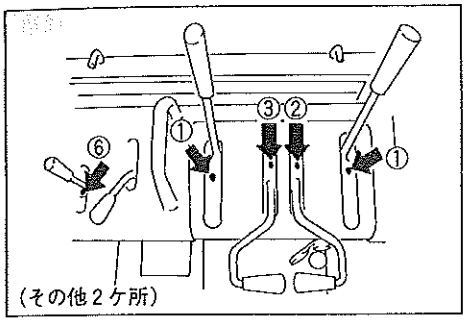


使用グリース：☞27ページ

1. 市販の手動式グリースポンプまたエア式グリースポンプを使用して図示箇所に給脂します。

参考：
手動式のグリースポンプを使用の場合は５～６回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は２～３秒で十分です。

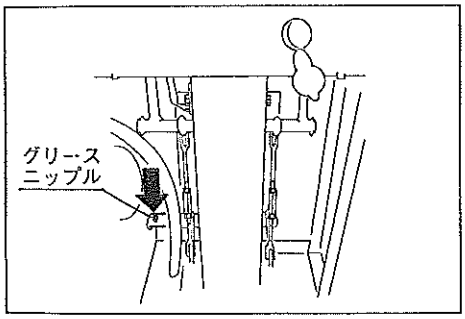
7.5.2 各摺動部



下記箇所に注油します。

使用オイル：☞27ページ

① サイドクラッチレバー支点
② 走行クラッチレバー支点
③ 駐車ブレーキレバー支点
④ 走行クラッチテンションアーム支点
⑤ 油圧テンションアーム支点
⑥ ダンプレバー支点
（三転ダンプおよび一方ダンプ仕様車）

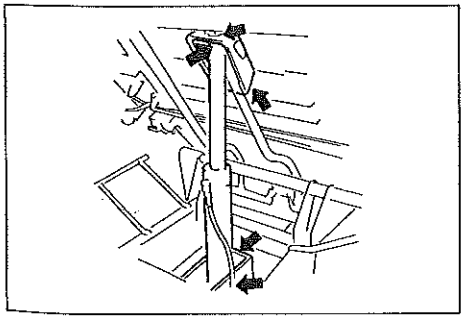


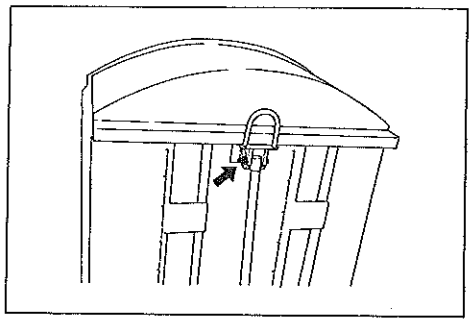
下記箇所に給脂します。

使用オイル：☞27ページ

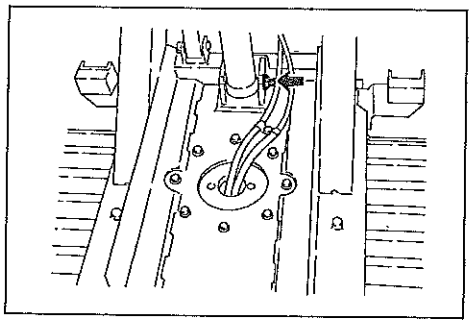
① サイドクラッチ中間支点

② シリンダ支点（三転ダンプおよび一方ダンプ仕様車）
（三転ダンプ…５ケ所、一方ダンプ…１ケ所）

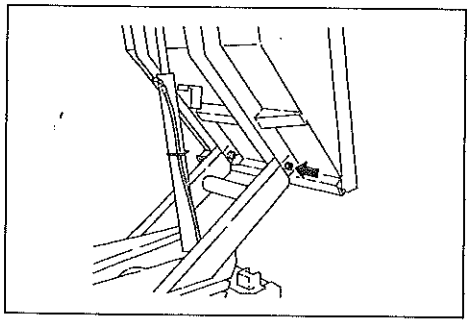




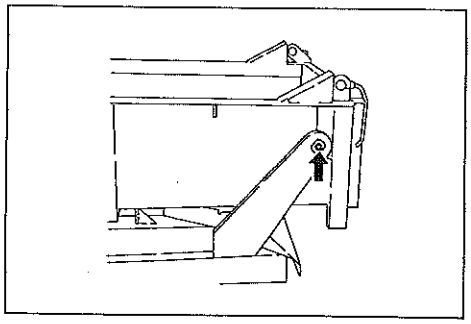
③ シリンダ上部支点（ターン＆ダンプ仕様車）
…1ケ所



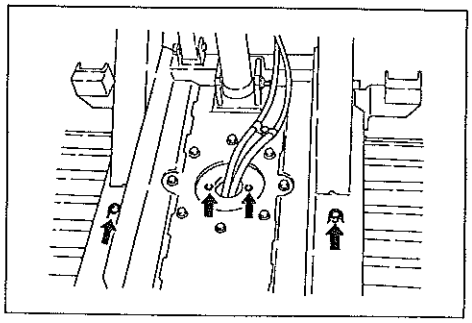
④ シリンダ下部支点（ターン＆ダンプ仕様車）
…1ケ所



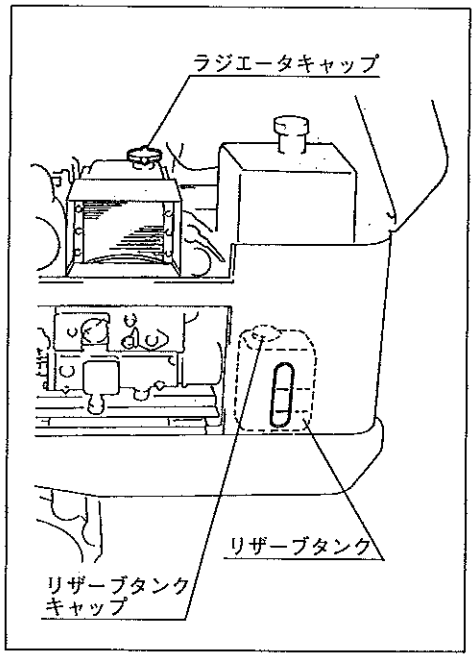
⑤ バケット支点（バケットターン＆ダンプ仕様車）
…2ケ所



⑥ 荷台支点（箱型ターン＆ダンプ仕様車）
…2ケ所



⑦ ターンテーブル回転部（ターン＆ダンプ仕様車）
…4ケ所



7.6 給水

7.6.1 エンジン冷却水

点検／補給

⚠注 意

エンジン運転中および停止直後にラジエータキャップを開けると、熱湯が噴出してやけどをすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから（エンジン停止後約10分程度）開けてください。

1. リザーブタンクのエンジン冷却水量を目視点検し、規定量にない場合は、リザーブタンクキャップを開けて、冷却水を補給します。

冷却水量：リザーブタンクの基準線（上と下）の間

不凍液の混合について（参考）

本製品は工場出荷時に不凍液40％混合済の冷却水を充填しています。
冷却水の凍結を防ぐため、使用する地域の最低気温を元に下表の割合で不凍液を混合してご使用ください。

使用温度	混合割合	使用温度	混合割合
-10℃	30%	-30℃	50%
-15℃	35%	-35℃	55%
-20℃	40%	-40℃	60%
-25℃	45%		

※使用温度は最低気温より５℃低い値を示す。

交換

1. 冷却水を抜取るための適当な受け皿を用意します。
2. ラジエータ下部のドレーンコックを「閉」から「開」の位置にします。

注 記

ドレーンコックの位置については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

3. 冷却水を抜取ります。
4. ドレーンコックを「開」から「閉」にし、冷却水を補給します。

7.6.2 バッテリ液

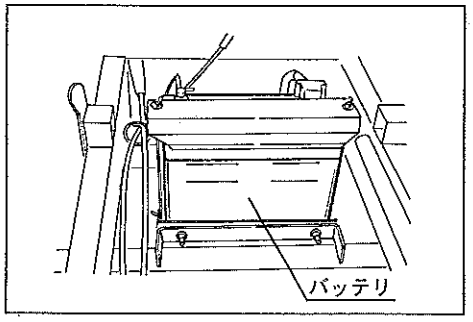
点検／補給

⚠危 険

バッテリから発生するガスは引火性があるため、バッテリに火気（煙草の火等）を絶対に近づけないでください。爆発するおそれがあります。

⚠注 意

- **バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。付着したまま放置すると、バッテリ液（希硫酸）によって、火傷することがあります。**
- **バッテリの点検および取外しのときには、エンジンを停止し、エンジンキースイッチを「切」にしてください。**



（三転ダンプおよび一方ダンプ仕様車）

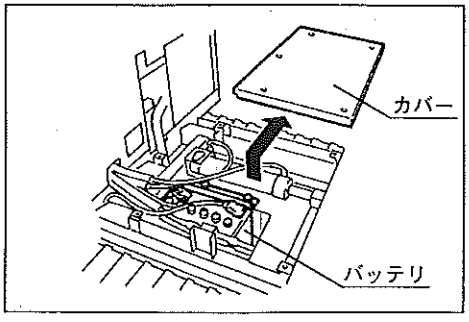
1. エンジンを始動します。
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。(☞19ページ)
3. バッテリ液量を目視点検し、必要な場合はバッテリ液を補給します。

   バッテリ液量：基準線（上および下）の間
   バッテリ液：蒸留水

（ターン＆ダンプ仕様車）

1. エンジンを始動します。
2. バケット（荷台）を左右どちらかに90°回転させます。(☞21ページ)
3. カバーを取外します。
4. バッテリ液量を目視点検し、必要な場合はバッテリ液を補給します。

   バッテリ液量：基準線（上および下）の間
   バッテリ液：蒸留水



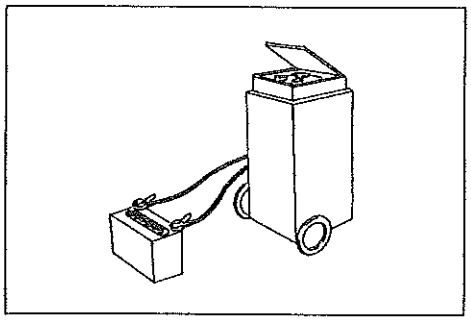
充電

⚠注　意

- バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
- バッテリにコードを接続するときは、⊕と⊖を間違えないようにしてください。一度でも間違えるとヒューズが飛び、バッテリが充電できなくなります。
- バッテリからコードを外すときは⊖側、取付けるときは⊕側から行ってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- バッテリを取外し、再度取付けるときには、バッテリの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように締め付けてください。

注　記

急速充電法は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急的処置として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電をしておいてください。補充電をしておかないと、バッテリの寿命は極端に短くなります。



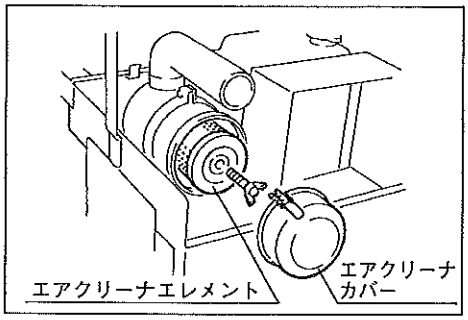
1. バッテリを取外します。
2. バッテリの⊕と充電器の⊕、バッテリの⊖と充電器の⊖をそれぞれ接続して充電します。（使用する充電器の「取扱説明書」の指示に従ってください。）

7.7 清掃

7.7.1 エアクリーナエレメント

注　記

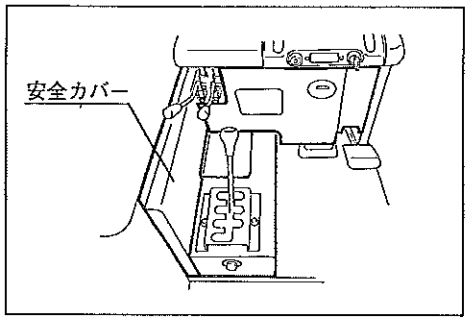
エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（100時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。



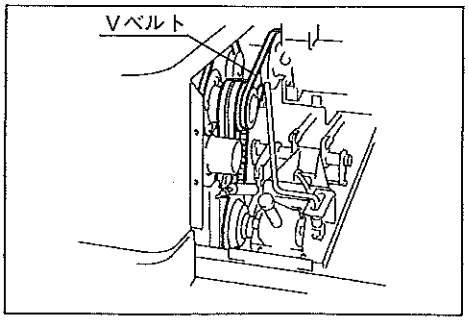
清掃／交換
1. エンジンカバーを開けます。(☞12ページ)
2. エアクリーナカバーを取外します。
3. エアクリーナエレメントを取外します。
4. 付録の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。

7.8 調整

7.8.1 Vベルト



点検
1. 安全カバーを取外します。



2. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。

調整（Vベルトの滑り）
「7.8.2 走行クラッチ」を参照してください。

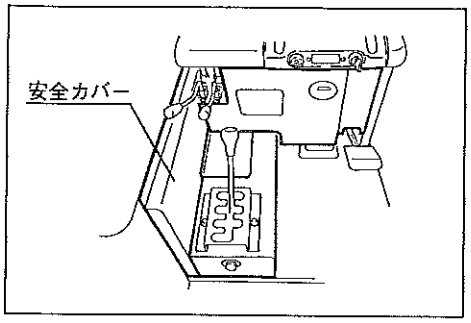
交換
販売店へ依頼してください。

7.8.2 走行クラッチ

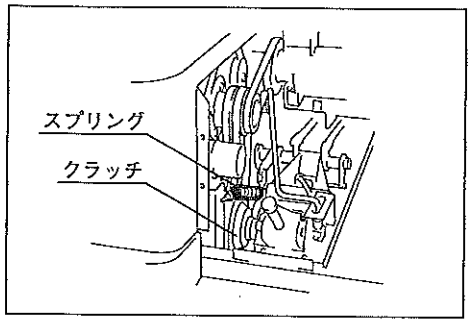
（クラッチの切れが悪い場合）

注　記

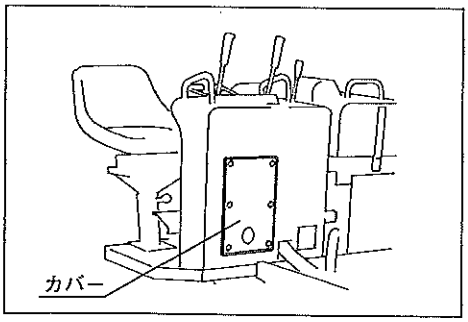
長期の使用でクラッチの切れが悪くなってきたら、下記の要領で調整してください。



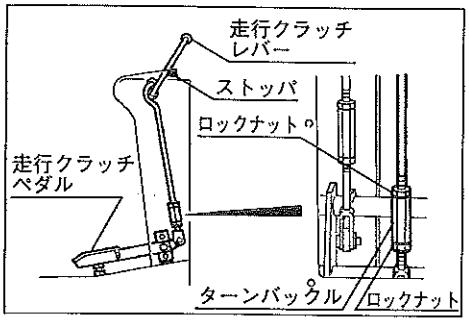
1. 安全カバーを取外します。(☞36ページ)



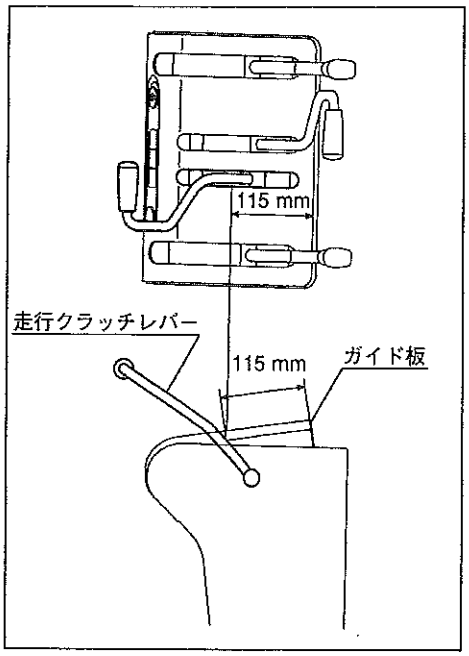
2. クラッチについているスプリングを取外します。



3. 荷台を上昇させます。(☞19ページ)
4. 図示カバーを取外します。



5. ターンバックルのロックナットを緩めます。



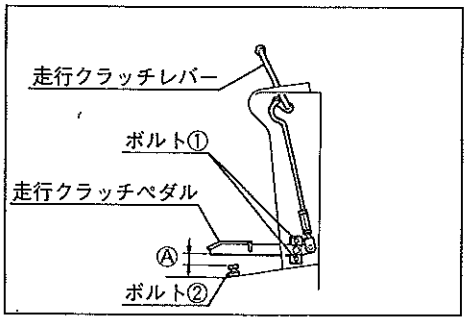
6. ガイド板前方より115mmの位置にクラッチレバーを「走（走行）」側に動かしたとき、クラッチがつながるようにターンバックルを回して調整します。

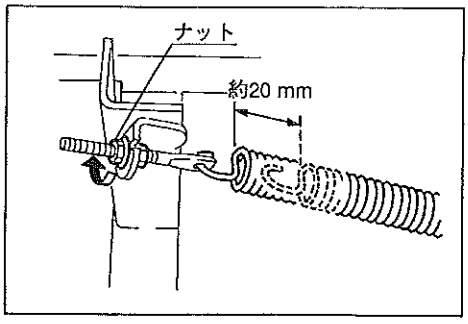
7. ターンバックルのロックナットを締め付けます。

注　記

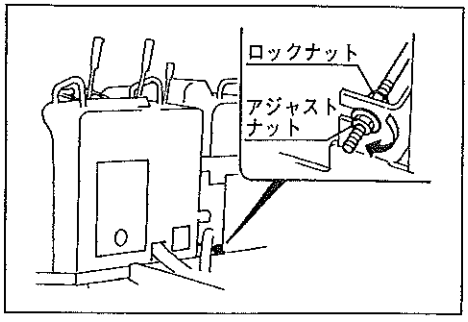
オプションの走行クラッチペダル付きの場合、下記調整も行います。

- **走行クラッチレバーをストッパに当たるまで押し付けたとき、走行クラッチペダルとボルト②のすき間Ⓐが10mmになるように、ボルト①を緩め調整し、締め付けます。**
- **走行クラッチペダルを踏んだとき、走行クラッチレバーとストッパとの距離が10mmあることを確認してください。**





8. クラッチにスプリングを取付け、スプリングが約20mm伸びるようにナットで調整します。

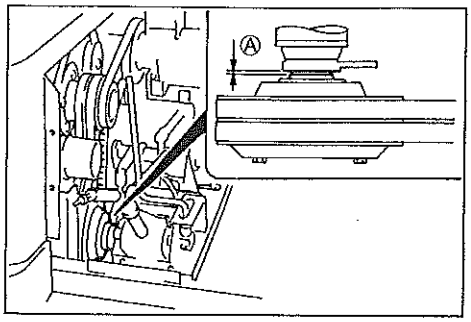


（Vベルトが滑る場合）

1. 荷台を上昇させます。(☞19ページ)

2. 図示ロックナットを緩めます。

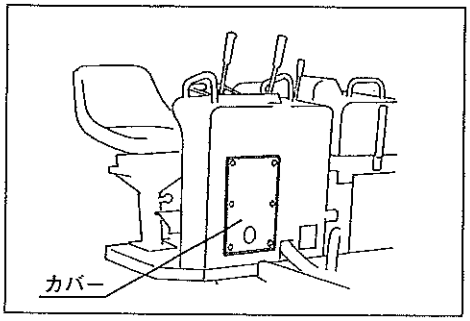
3. アジャストナットを矢印の方向に回し、テンションアームにてVベルトを張ります。



（クラッチが滑る場合）

1. 安全カバーを取外します。(☞36ページ)

2. クラッチ板が摩耗して図示すき間Ⓐがなくなり、クラッチが滑る場合は、クラッチ板を交換してください。(交換については、販売店へ依頼してください。)



7.8.3 駐車ブレーキ

注　記

少しでも甘くなったりした場合は即座に下記の調整を行ない、常に安全を心掛けるようにしてください。

1. 荷台を上昇させます。(☞19ページ)

2. 図示カバーを取外します。

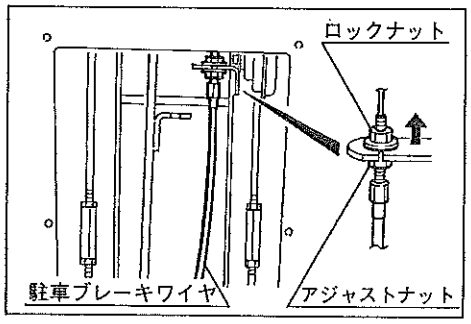
3. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置にし、ブレーキワイヤをフリーの状態にします。

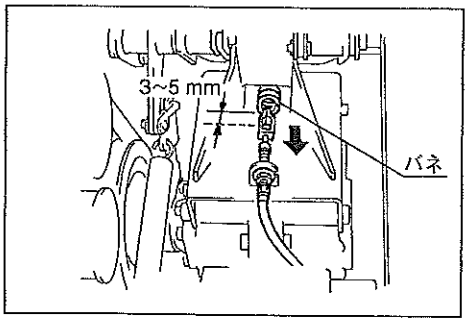
4. ブレーキワイヤのロックナットを緩めます。

5. アジャストナットを回し、ブレーキワイヤを調整します。

   ・ ブレーキの効きが悪い場合
   アジャストナットを矢印の方向へ回転させ、ブレーキ「入」でトランスミッションとブレーキワイヤをつないでいるバネが3～5mm程度伸びるよう調整してください。

6. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。



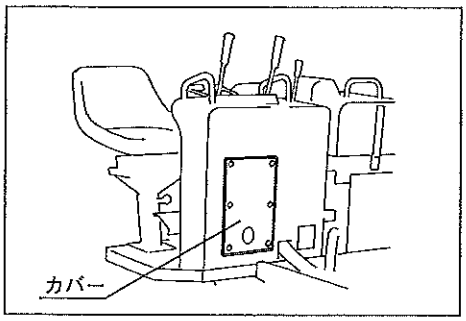


7.8.4 サイドクラッチ

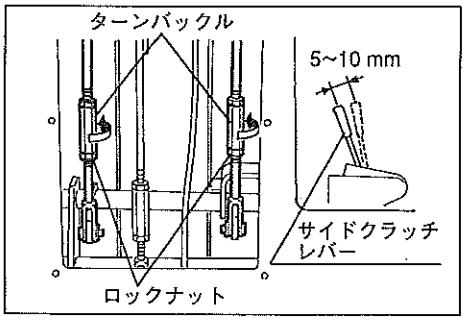
サイドクラッチレバーの遊び調整

注　記

- サイドクラッチレバーに遊びが多くなった時は、ターンバックルにて調整してください。（ミッション脱着時およびロッド類のオーバーホール時以外は、ほとんど調整の必要はありません。）
- 旋回不良の場合は、トランスミッションのブレーキアジャストボルトの調整を行なってください。（☞41ページ）



1. 図示カバーを取外します。

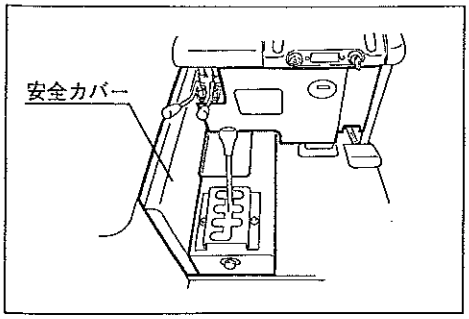


2. ターンバックルのロックナットを緩めます。
3. ターンバックルを回し、サイドクラッチレバーの遊びを調整します。

   サイドクラッチレバーの遊び：
   5～10mm（レバーの握り部で）

   参考：
   ロッドが縮む方向（図示矢印方向）にターンバックルを回すとレバーの遊びは少なくなります。

4. 調整後は、ロックナットでターンバックルを確実に固定してください。

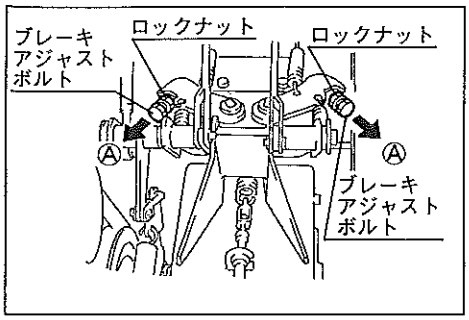


トランスミッションのブレーキアジャストボルトの調整

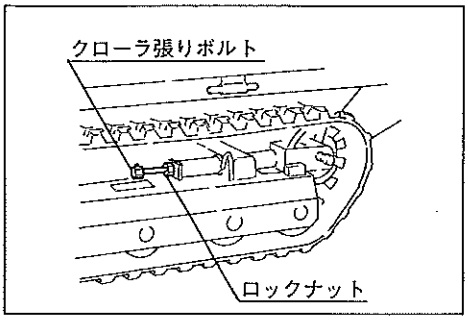
注　記

サイドクラッチの切れが悪いとき（サイドクラッチギヤが抜けていて尚かつクローラが止らない場合）は、トランスミッションのブレーキアジャストボルトにて調整してください。

1. 安全カバーを取外します。
2. ブレーキアジャストボルトのロックナットを緩めます。
3. ブレーキアジャストボルトをⒶの方向へ回します。
4. 調整後、必ずロックナットを締め付けてください。

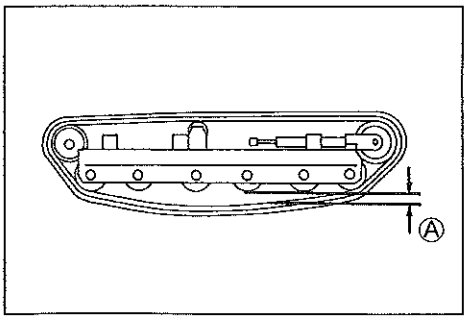


7.8.5　クローラの張り



注　記

クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。



1. 車体を水平な場所に置きます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。
3. クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。
4. クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図示Ⓐ）を15～20mmに調整します。

7.9 使用後のお手入れ

（通常時の使用後のお手入れ）

・ 使用後は車体に付着した泥や異物を取除いてください。エンジンや操作盤の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。

・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておくと効果的です。

（寒冷期の使用後のお手入れ）

・ 使用後必ず車体に付着した泥や異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくと効果的です。）

注　記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意ください。

・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておくと効果的です。

8. 格納（長期保管）

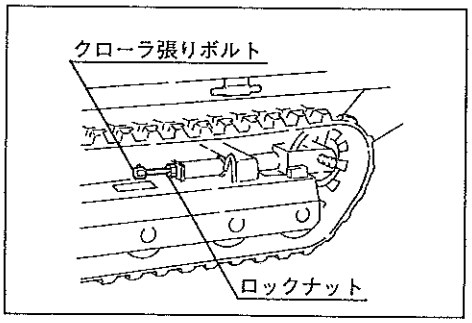
長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞42ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

⚠危　険

火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注　記

湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、カバー（ビニール等）を本機にかけてください。



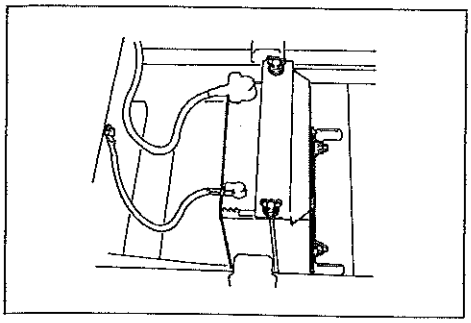
8.1 本機（車両）

1. クローラの張りボルトを緩めます。(☞41ページ)
2. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は給油します。
3. クローラの下に板等を敷きます。
4. 走行クラッチレバーを「停」、駐車ブレーキレバーを「切」の位置にします。
5. エンジンキーを抜きます。

8.2 バッテリ

⚠注　意

バッテリ線を外す場合はマイナス（−）を先にプラス（＋）を後で外し、接続する場合はプラス（＋）を先にマイナス（−）を後で接続します。



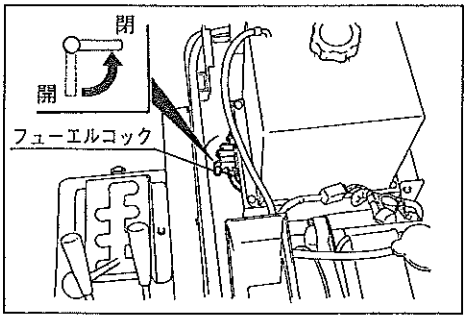
1. 本体（車両）からバッテリを取外します。(☞34ページ)
2. バッテリ液の量を確認し、必要な場合は補充します。(☞34ページ)
3. 低温で乾燥した場所に保管します。

参考：
バッテリは使用しなくとも約６ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリを長持ちさせることができます。

8.3 エンジン

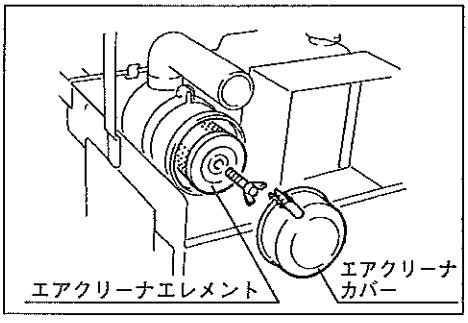
注　記

エンジン長期保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。



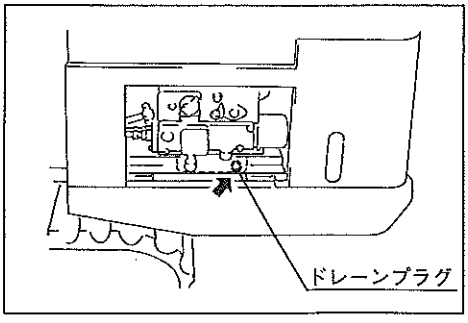
8.3.1 フューエルコック

1. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。



8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃

1. エンジンカバーを開けます。(☞12ページ)
2. エアクリーナエレメントを取外し、確実に清掃します。(☞36ページ)



8.3.3 エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを抜取り、新しいエンジンオイルと交換します。(☞28ページ)

8.3.4 エンジン冷却水の排出

1. エンジン冷却水を完全に抜き取ります。(☞33ページ)

9. 不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。

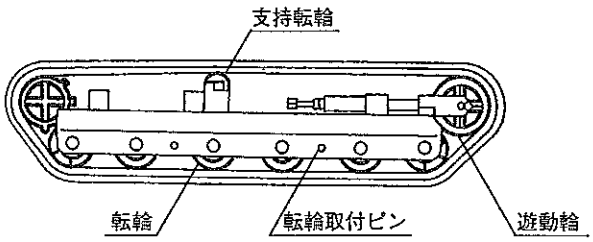
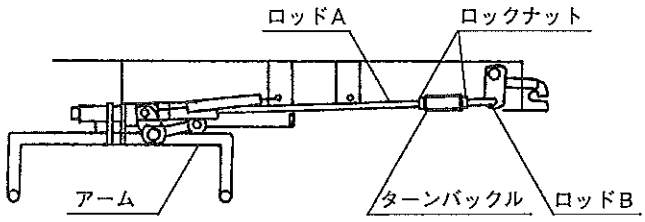
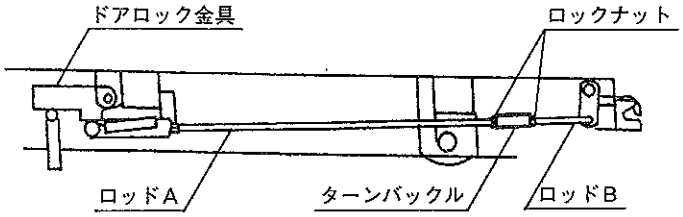
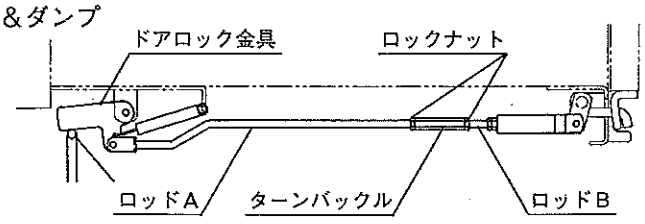
- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

9.1 不具合診断表

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンがかからない またはかかりにくい	• 燃料不足	▶ 補給する（☞12ページ）
		• 燃料ホース内への空気の混入	▶ エア抜きをする（「エンジン取扱説明書」参照）
		• 燃料の吸い込みすぎ	▶ 時間をおいて始動する
		• バッテリの容量不足（セルモータの起動不良）	▶ バッテリ液を補給する（☞34ページ）
			▶ バッテリを充電する（☞35ページ）
			▶ バッテリを交換する（☞34ページ）
			▶ デコンプレバーを使用する（「エンジン取扱説明書」参照）
		• バッテリ端子の外れまたは断線	▶ 接続または修理する（販売店へ依頼してください）
		• エンジンオイルの不足または品質不良	▶ 補給する（☞28ページ）
		• その他（上記以外）	▶ 本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。
	すぐにエンストする	• フューエルコックが開いていない	▶ フューエルコックを開く
		• 燃料不足	▶ 補給する（☞12ページ）
		• 燃料ホース内への空気の混入	▶ エア抜きをする（「エンジン取扱説明書」を参照）
	エンジンが突然停止した	• 燃料切れ	▶ 補給する（☞12ページ）
		• エンジンオイル不足または劣化による焼き付き	▶ 点検および補給する（☞28ページ）
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	———	▶ 販売店へお問い合わせください

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	出力または加速不足	• Vベルトの緩み • スロットルの調整不良 • 過積載	▶調整する ▶販売店へお問い合わせください ▶積み荷をへらす
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	• エンジンマウントの劣化 • その他	▶交換する（販売店へ依頼してください） ▶販売店へお問い合わせください
	エンジンオイルの消費が早い	• エンジンオイルの漏れ	▶点検および修理する
	エンジンのオーバヒート	• エンジンオイルの不足 • エンジン冷却水の不足 • エンジン冷却水の漏れ	▶補給する（☞28ページ） ▶補給する（☞33ページ） ▶点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	燃料の消費が早い	• 燃料系統からの燃料漏れ • エアクリーナの目詰まり	▶点検および修理する（販売店へ依頼してください） ▶清掃または交換する（☞36ページ）
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	• エアクリーナの目詰まり • 燃料不良 • 圧縮不良	▶清掃または交換する（☞36ページ） ▶燃料を交換する（☞12ページ） ▶点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	白煙が出る（排気状態の不良）	• エンジンオイルが入り過ぎている • 燃料不良 • シリンダ、ピストンリングの摩耗	▶点検後、オイル量を調整する（☞28ページ） ▶燃料を交換する（☞12ページ） ▶点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	スロットルレバーが引っ掛かる	• スロットルワイヤの折れ、錆付き • スロットルレバーの変形、作動不良	▶交換する（販売店へ依頼してください） ▶交換する（販売店へ依頼してください）

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
動力伝達装置関連	クラッチをつないでも車が動かない	• 確実に変速（シフト）していない	▶ 確実に変速（シフト）する
		• ブレーキが効いている	▶ ブレーキの解除
		• Vベルトが外れている、緩みすぎている	▶ Vベルトをかける、または調整する
		• トランスミッションの故障	▶ 販売店へお問い合わせください
	クラッチの切れが悪い	• 調整不良	▶ 調整する（☞37ページ）
	クラッチをつなぐとVベルトが滑る	• 調整不良	▶ 調整する（☞38ページ）
	トランスミッション付近から異音がする	• ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	▶ 販売店へお問い合わせください
	変速できない	• クラッチの調整不良	▶ 調整する（☞37ページ）
		• ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	▶ 販売店へお問い合わせください
	ギヤ抜けする	• 確実に変速（シフト）していない	▶ 確実に変速（シフト）する
		• ギヤの摩耗	▶ 販売店へお問い合わせください
		• 過積載	▶ 積み荷を減らす
	サイドクラッチで遊びが発生する	• 調整不良	▶ 調整する（☞40ページ）
	旋回が円滑に行えない	• 調整不良	▶ 調整する（☞40ページ）
ブレーキ	効きが悪い	• 調整ナットの緩み	▶ 調整する（☞39ページ）
		• ブレーキディスクの摩耗	▶ ディスクを交換する（販売店へ依頼してください）
		• 過積載	▶ 積み荷を減らす
クローラ	クローラが円滑に回転しない	• 調整不良	▶ 調整する（☞41ページ）

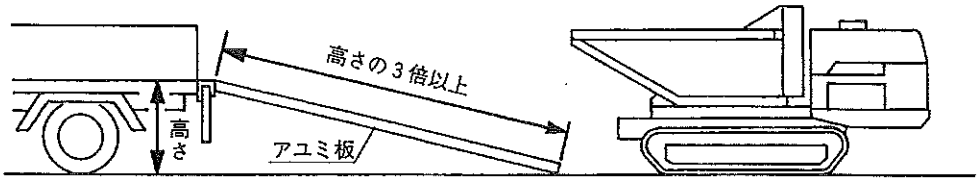
<table>
<tr><th>発生箇所</th><th>不具合現象</th><th>考えられる原因</th><th>処　　置</th></tr>
<tr><td rowspan="3">遊動輪、
転　輪、
支持転輪、
転輪取付ピン</td><td>不連続音がある</td><td>――――</td><td>▶不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）</td></tr>
<tr><td>異常発熱がある</td><td>――――</td><td>▶不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）</td></tr>
<tr><td colspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="4">荷　　台
（前ドアおよび側板を含む）</td><td>ドアの開閉不良</td><td>• ドアロックの調整不良</td><td>▶ターンバックルを調整する（下記参照）</td></tr>
<tr><td colspan="3">• 三転ダンプ
 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">• 一方ダンプ
 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">• 箱型ターン＆ダンプ
 
</td></tr>
<tr><td>ダンプ装置</td><td>ダンプ装置が作動しない</td><td>• パワーパッケージのオイル不足または劣化
• 油圧系統からのオイル漏れ</td><td>▶給油または交換する（☞30ページ）
▶点検および修理する（販売店へ依頼してください）</td></tr>
</table>

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　　置
安全装置関連	エンジン始動後も、ウォーニングランプが点灯する		
	(1) チャージランプ	• カプラ・配線の外れ	▶接続する
	(2) オイルランプ	• エンジンオイルの不足または潤滑系統の異常	▶補給する（☞28ページ）
	(3) 水温ランプ	• エンジンの加熱	▶「エンジンのオーバーヒート」の項参照

10. 本機の移送

本製品の移送のために自動車（トラック）へ積降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラの1.2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの３倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

⚠危　険

- **作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。**
- **アユミ板上での方向変換は行わないでください。転落の危険があります。**
- **アユミ板を上がるときは前進１速、アユミ板を下るときは後進１速にてゆっくりと走行してください。**

⚠注　意

アユミ板と自動車（トラック）の荷台の境目で機械の重心が急に移動することがあるので注意してください。

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp

■本社営業部 ☎0943(75)2195(代) FAX (75)4396
■埼玉センター ☎0495(77)4511(代) FAX (77)1561
■貿易センター ☎03(3552)6255(代) FAX(3552)6288
■大阪センター ☎0790(42)6031(代) FAX (42)6035
■東京センター ☎03(3552)6255(代) FAX(3552)6288
■広島センター ☎0824(84)5996(代) FAX (34)5997
■仙台センター ☎022(281)1255(代) FAX (281)3141
■福岡センター ☎0943(76)2583(代) FAX (75)5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。